

群落・群集の潜在的分布域とその重なり 植生調査データの活用事例

鎌田磨人

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

安東純平

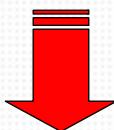
徳島大学工学部建設工学科



ビオトープ

一般的な定義

生物の生息・生育空間



とくしまビオトープ・プランでの定義

地域本来の野生生物がすみ続けられる場所

とくしまビオトープ・プラン

空間を階層的にとらえながらビオトープネットワークの構築（生態系の保全・再生・創造）をめざす。

- ビオトープタイプ現況図
(1/35万, 1/10万*)の提供.
- ビオトープネットワーク方針
図 (1/35万, 1/10万*)の提供.
- 指針に基づいて各主体（事業者, 県民, 学校）がビオトープの現状把握 (1/10000～1/5000), 上位スケールとの対応, つながりを検討.



環境省の植生
図（自然環境
GIS）

*1/5万までは提供可能

ビオトープ区分の例

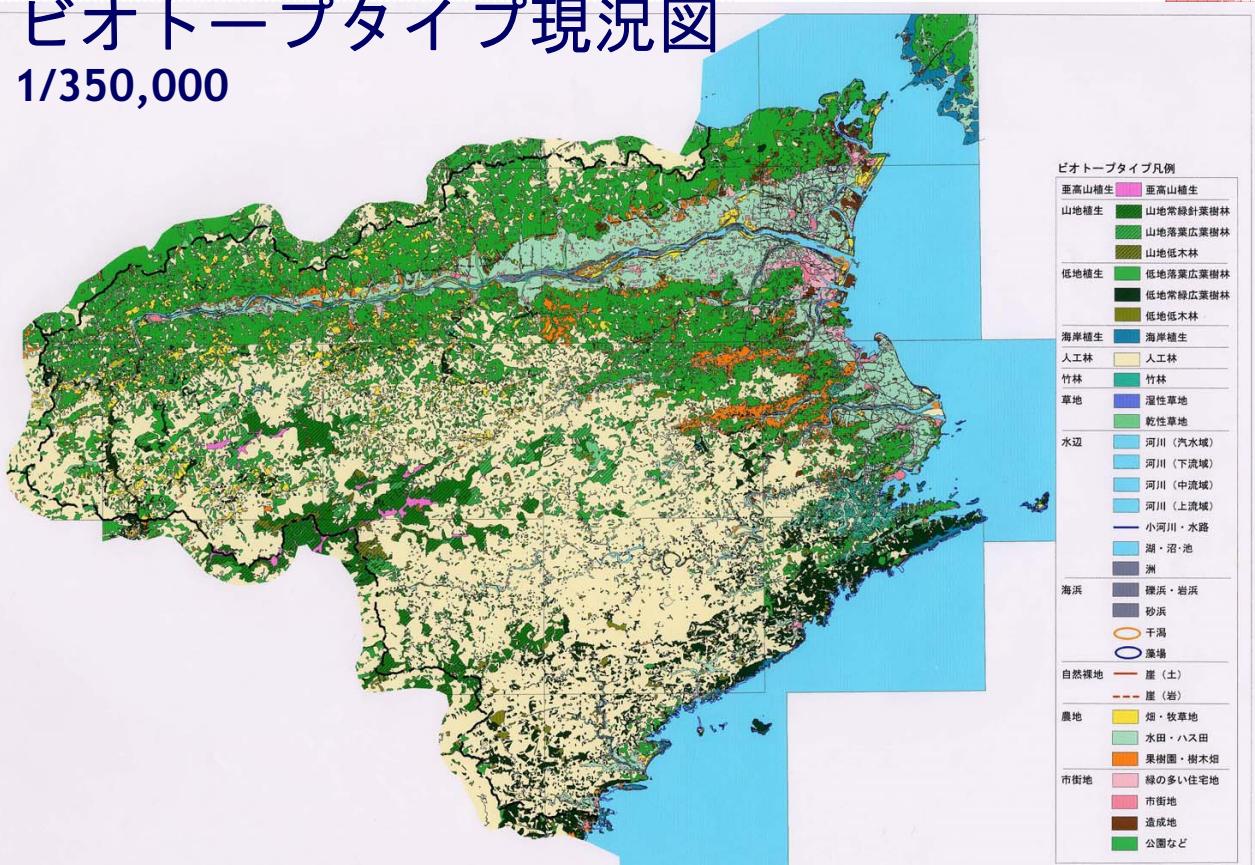
景観タイプ	ビオトープタイプ	植生	動物群の例			
			希少種	指標種	上位種	普及種
低地植生 1000m未満	低地落葉広葉樹林 (里山林)	アカマツ群落	キツネ	ニホンリス	キツネ	ニホンリス
		クロマツ群落	ミソゴイ	サシバ	タヌキ	キツネ
		イワシデ群落	クマタカ	フクロウ	アナグマ	タヌキ
		コナラ群落	ハイタカ	アオゲラ	サシバ	フクロウ
	低地常緑広葉樹林	サカキーウラジロガシ群集	キツネ	ミソゴイ	キツネ	キツネ
		サカキーコジイ群集	ミソゴイ	サシバ	タヌキ	タヌキ
		ホルトノキ群集	ハイタカ	アオバズク	アナグマ	シラサギ類
		スダジイ群落	サシバ	フクロウ	ハイタカ	アオサギ
		シイ・カシ萌芽林	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	サシバ	フクロウ
		シラカシ群集	サシバ	サンコウチョウ	アオバズク	ヤマガラ
	低地低木林	川辺ヤナギ低木群落 (キシツツジ群落)	キツネ	モズ	キツネ	キツネ
		伐採跡群落(ヌルデ群落)		ホオジロ	タヌキ	タヌキ
環境省植生図の利用			文献資料、専門家からの意見聴取			

問題点

- 1) 植生の現状との不一致（特に二次林）
- 2) 動物の分布に関する情報不足
- 3) 植生タイプと動物群の分布の整合性

ビオトープタイプ現況図

1/350,000



広域ビオトープネットワーク現況図の作成

1/350,000

ビオトープタイプの抽出・統合

山地(1000m以上；冷温帯)

- ・亜高山植生
- ・山地常緑針葉樹林
- ・山地落葉広葉樹林
- ・山地低木林

低地(1000m未満；暖温帯)

- ・低地常緑広葉樹林
- ・低地落葉広葉樹林（里山林）
- ・低地低木林

ビオトープネットワークの把握

- 1) 面積1ha以上を抽出
- 2) ビオトープ間の距離が50m未満のものを統合
- 3) 拠点（大拠点・中拠点の抽出）

山地

大拠点A：7000ha以上（ツキノワグマ）
中拠点 50ha以上（タヌキ）

大拠点B：2000ha以上（クマタカ）

低地

大拠点A：500ha以上（キツネ）
中拠点 50ha以上（タヌキ）

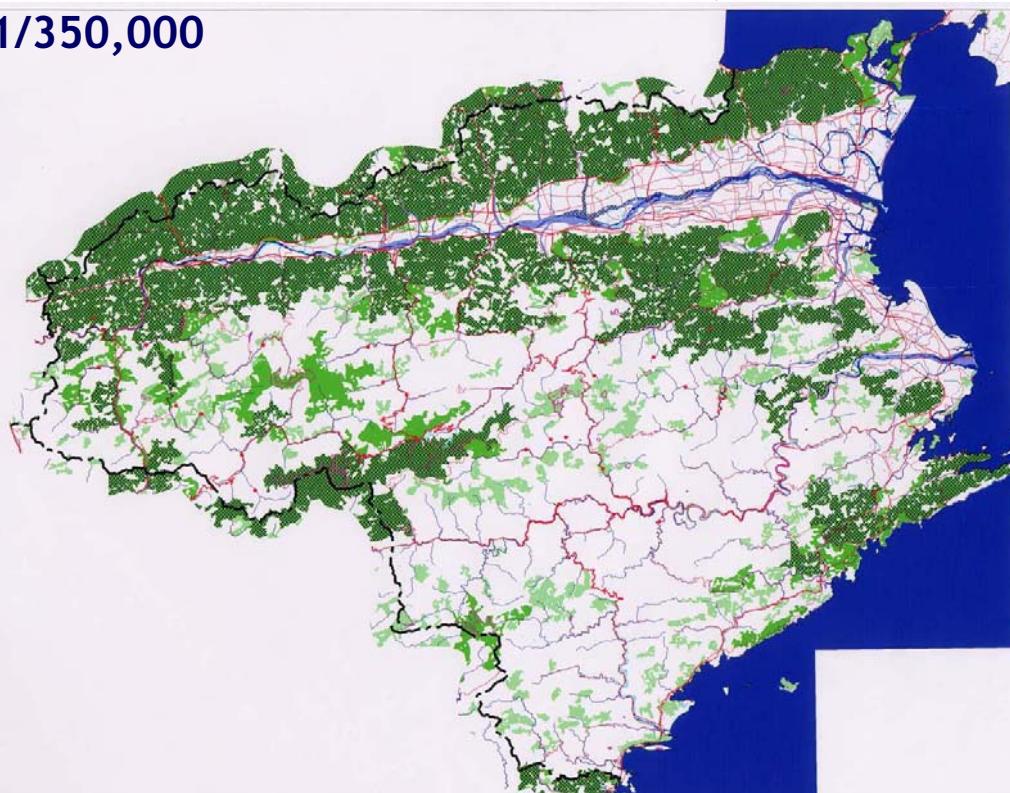
大拠点B：500ha以上（オオタカ）

分断要素の抽出

- ・高速道路
- ・国道
- ・県道
- ・主要地方道
- ・鉄道

ビオトープネットワーク現況図

1/350,000



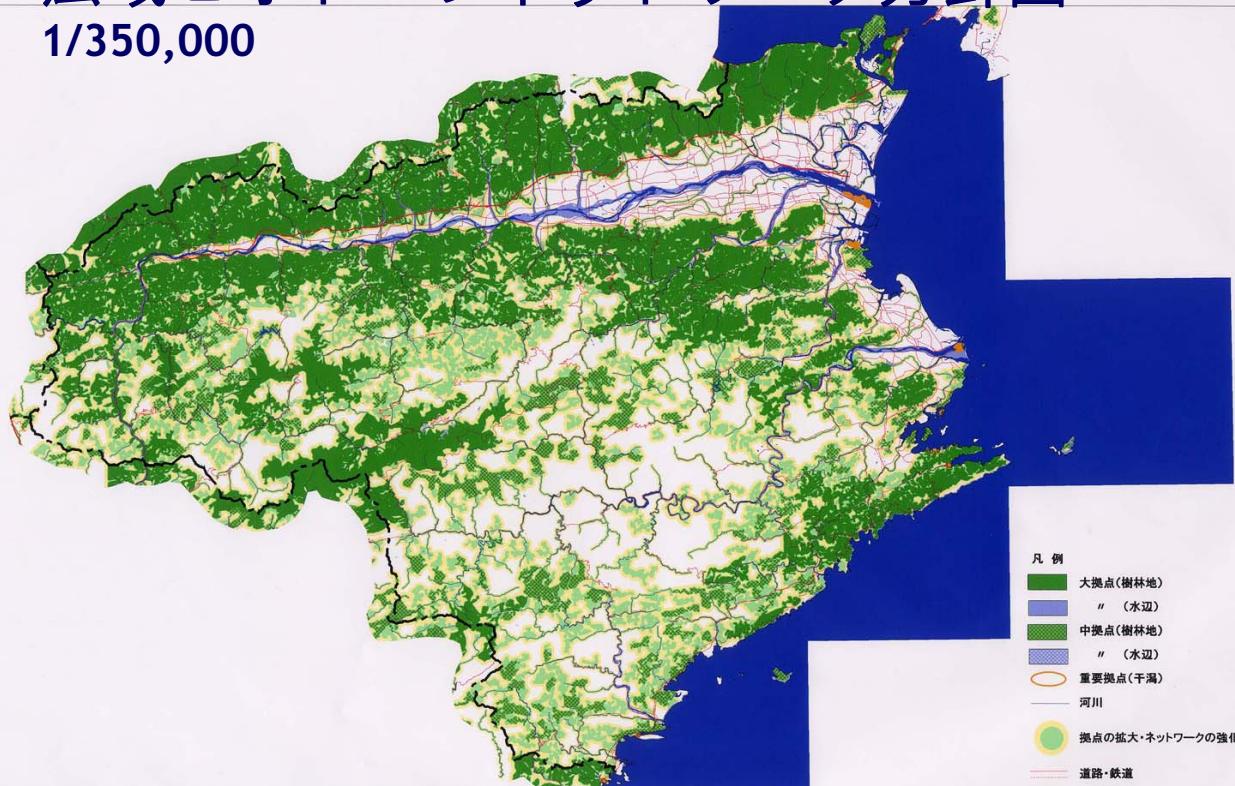
広域ビオトープネットワーク方針図の作成

1/350,000

- 広域ビオトープネットワーク現況図（大拠点 + 中拠点）+潜在的連結域+拡大域
 - 潜在的連結域
 - 1ha以上のビオトープについて、ビオトープ間の距離が200m未満（鳥類の移動可能距離）のものを統合.
 - 統合された面積が50ha以上のものを抽出.
 - 拡大域
 - 大拠点、中拠点、潜在的連結域に100mのバッファーを発生させた上で抽出.

広域ビオトープネットワーク方針図

1/350,000



とくしまビオトープ・プラン 広域ビオトープネットワーク方針図

1:350000

課題

- 時間的に変化する植生の継続的把握とその反映
 - 継続的な調査、基図（植生図）の作成
 - ビオトープタイプ現況図、ビオトープネットワーク方針図への反映
- 植生タイプの機能分類、およびその表現方法
 - 植物相（稀少種）、動物相との対応関係
 - 生産量との対応関係
- スケールに対応した精度、凡例
- 将来計画のための遷移予測、自然植生の分布域の境界

空間重複度を用いた森林型の潜在的分布類型

徳島大学工学部 建設工学科
生態系管理工学研究室 4年
安東 純平

目的

長期的な
ビジョン
に基づく
国土管理

植生学上
の問い

森林（植物群落・群集）が将来ど
のように森林になるのか

森林（植物群落・群集）の境界は
どこにあるのか

群落・群
集の分布
決定要因



森林の潜在的生育地地図の作成
重複度を用いた類型化

研究方法と流れ

環境省
自然環境保全基礎調査
植生調査データ

気象庁「気候値2000」

国土数値情報

国土交通省
地質

②環境要因パラメータの整理

①データの絞り込み
森林型の凡例の在データ

WI・CI・年降水量・最
深積雪量

最大傾斜角

凡例の再分類

③オーバーレイ解析

④Maxent解析
潜在的生育地地図の作成

⑤空間重複度の算出

⑥クラスター分析

⑦森林型の類型化と環境要因との対応

①データの絞り込み

自然環境保全基礎調査植生調査データ

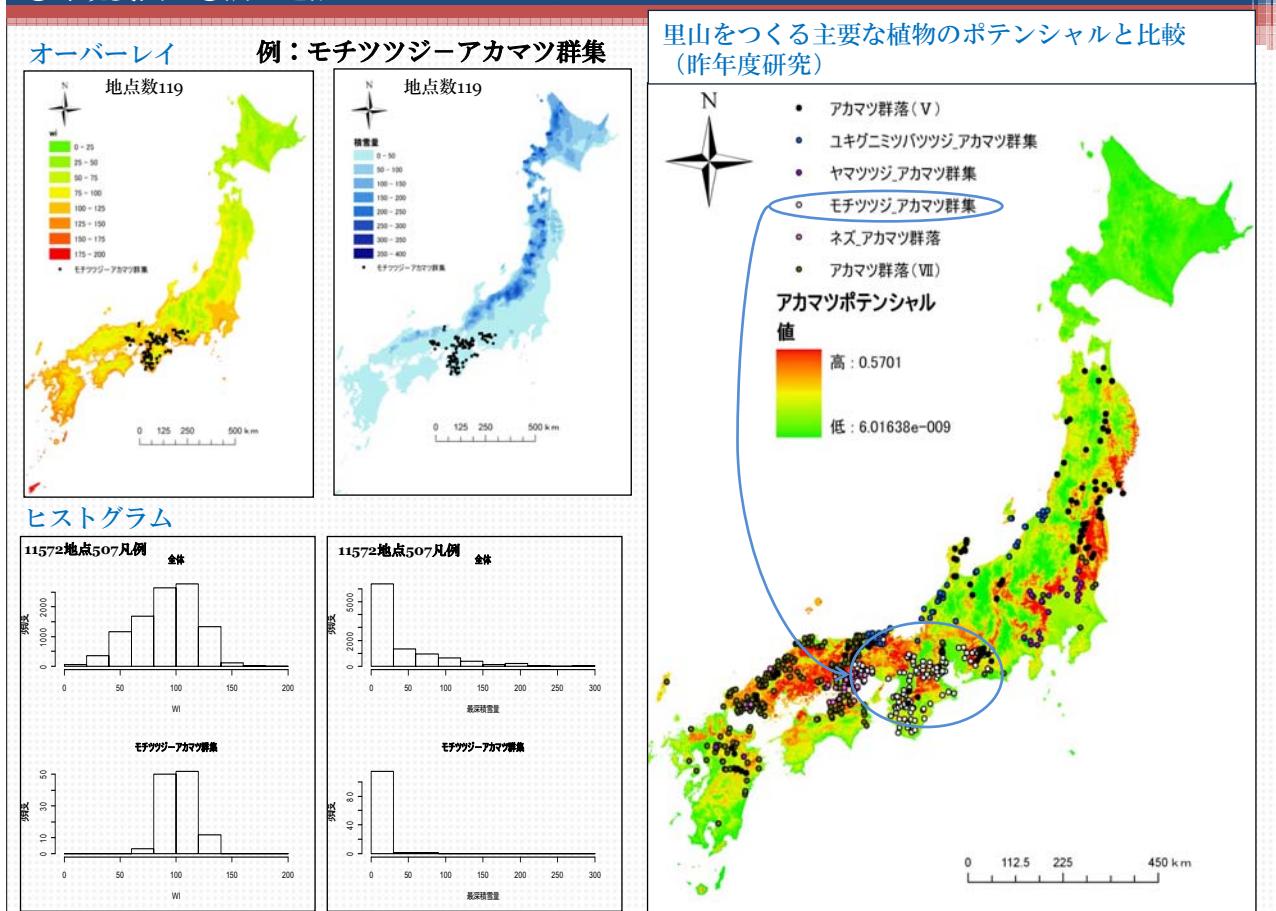
11572地点507凡例	
凡例	地点数
シイ・カシ二次林	512
ヨシクラス	404
コナラ群落（V I I）	364
アカマツ群落（V I I）	289
スギ・ヒノキ・サワラ植林	270
砂丘植生	233
クリーコナラ群集	202
ヒルムシロクラス	181
ツルヨシ群集	171
クリーミズナラ群集	154
竹林	142
オオバクロモジーミズナラ群集	133
スキ群団（V）	133
カナメモチーコジイ群集	132
ヤブコウジースダジイ群集	130
クロマツ植林	123
塩沼地植生	120
モチツツジーアカマツ群集	119
スキ群団（V I I）	119
アラカシ群落	113
シキミーモミ群集	108
アベマキーコナラ群集	108
ブナーミズナラ群落	104
アカシデーイヌシデ群落（V）	101
オギ群集	101
ミミズバイースダジイ群集	99
ヌマガヤオーダー	99
路傍・空地雑草群落	99
スダジイ群落	98
アカマツ群落（V）	97
.	.
.	.

絞り込み

→

森林型の凡例	
4443地点53凡例	
条件：20地点以上の凡例	
里山構成種凡例	地点数
シイ・カシ二次林	512
コナラ群落（V I I）	364
アカマツ群落（V I I）	289
クリーコナラ群集	202
クリーミズナラ群集	154
オオバクロモジーミズナラ群集	133
カナメモチーコジイ群集	132
ヤブコウジースダジイ群集	130
モチツツジーアカマツ群集	119
アラカシ群落	113
シキミーモミ群集	108
アベマキーコナラ群集	108
ブナーミズナラ群落	104
アカシデーイヌシデ群落（V）	101
ミミズバイースダジイ群集	99
スダジイ群落	98
アカマツ群落（V）	97
クヌギーコナラ群集	96
タブノキーヤニッケイ二次林	93
チシマザサーブナ群団	91
トベラーウバメガシ群集	75
シラキーブナ群集	72
ユキグニミツバツツジーコナラ群集	66
オクチョウジサクラーコナラ群集	61
ウバメガシ二次林	60
里山構成種凡例	地点数
イノデータブノキ群集	55
ユキグニミツバツツジーアカマツ群集	49
クロモジーブナ群集	46
ネズーアカマツ群落	46
ウラジロガシ群落	45
カスミザクランコナラ群落	43
トドマツーミズナラ群落	41
シラカシバーミズナラ群落	41
イスノキーウラジロガシ群集	41
オニシバリーコナラ群集	39
タブノキ群落	38
エゾイタヤーミズナラ群落	36
ホソバカナワラビースダジイ群集	35
ホソバヒカゲスグーコナラ群集	34
コナラ群落（V）	31
アガシ群落	31
キタコブシーミズナラ群集	30
シラカシ群集	29
アカガシ二次林	29
カシワ群落（I V）	28
ヤマボウシーブナ群集	28
カシワ群落（V）	26
イヌブナ群落	25
リョウブーミズナラ群集	25
ルリミノキーアイチガシ群集	25
アカシデーイヌシデ群落（V I I）	24
ヤマツツジーアカマツ群集	24
ブナ二次林	22

②環境要因と③調査地点とのオーバーレイ



④Maxent解析

Maxentについて

現地調査で得られた確認位置（在データ）と環境データから動植物の生息・生育適地を推測

〈特徴〉

- 在データだけで使える
- サンプル数が少なくてもよい など

〈用いたデータ〉

- 在データ…森林型凡例(53凡例)
- 環境データ

植生調査データは
在データのみ

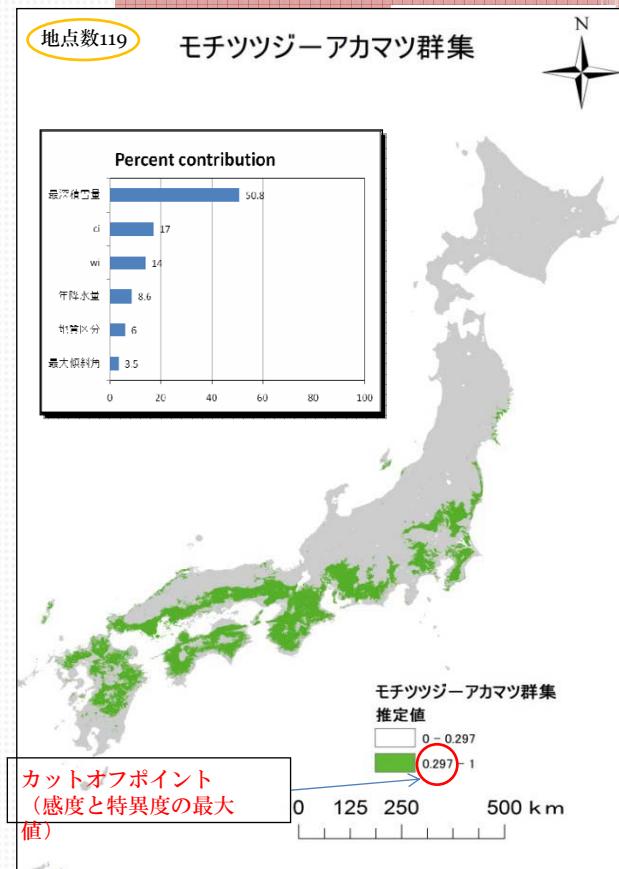
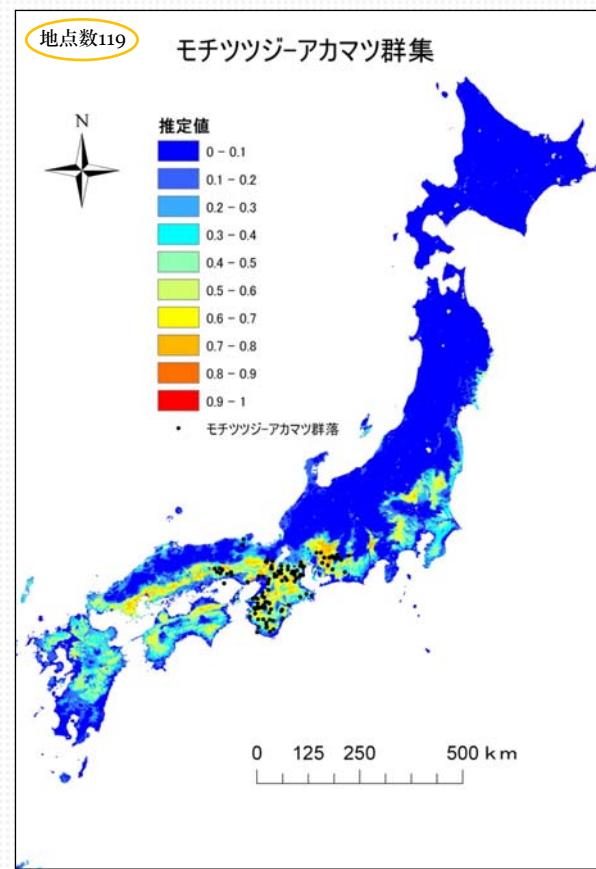
地質区分_再区分表

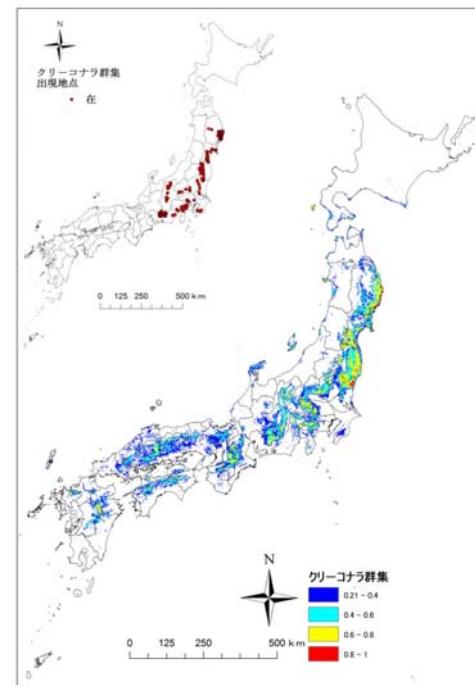
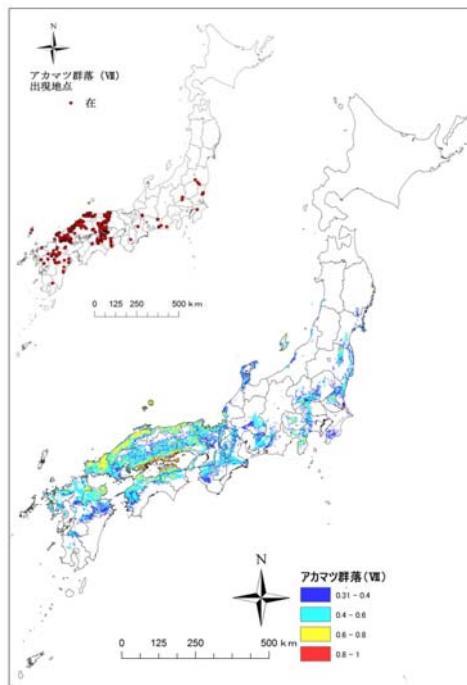
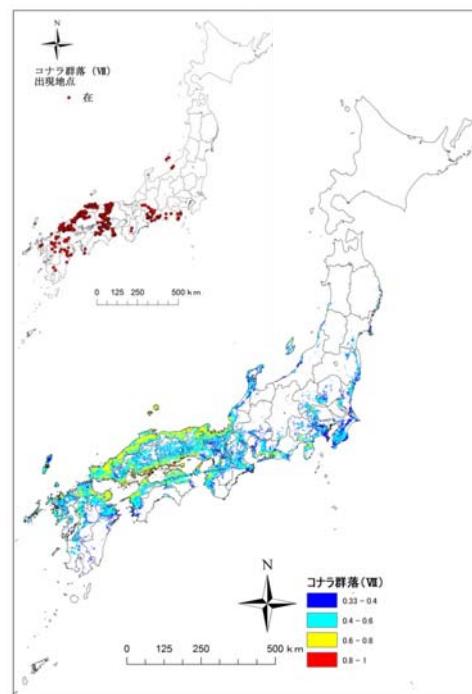
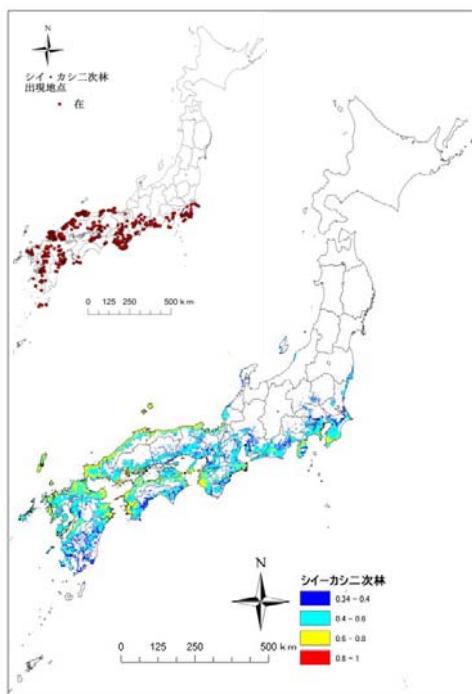
元の属性名	変換後属性名	元の属性名	変換後属性名
第四紀 堆積岩類 砂礫・粘土	①第四紀 堆積岩類	火成岩類 火山岩類 流紋岩類	⑤火山岩類
第四紀 堆積岩類 火山灰・ローム		火成岩類 火山岩類 安山岩類	
第四紀 堆積岩類 砂丘砂		火成岩類 火山岩類 玄武岩類	
第四紀 堆積岩類 溶結凝灰岩		火成岩類 深成岩類 花崗岩類	
第四紀 堆積岩類 洪積砂礫 (段丘堆積物を含む)		火成岩類 深成岩類 斑れい岩・輝綠岩	
新第三紀 堆積岩類 砂岩・泥岩・礫岩など (緑色凝灰岩)	②第三紀 堆積岩類	火成岩類 深成岩類 蛇紋岩・橄欖岩	⑥深成岩類
古第三紀 堆積岩類 砂岩・泥岩・礫岩など		変成岩類 結晶片岩類	
中生代 堆積岩類 砂岩・頁岩・礫岩など		変成岩類 片麻岩類	
古生代 堆積岩類 石灰岩類	③中生代 堆積岩類	埋立地	⑦変成岩類
古生代 堆積岩類 粘板岩・砂岩・チャート・シャールスタイル (輝綠凝灰岩)		水域	
	④古生代 堆積岩類		⑧その他

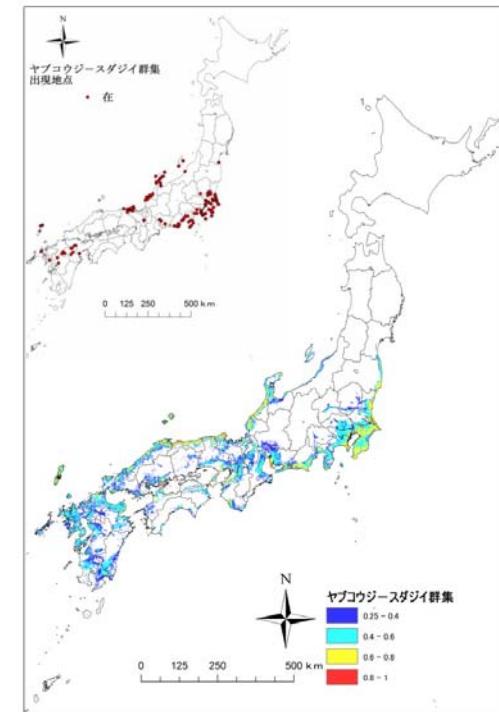
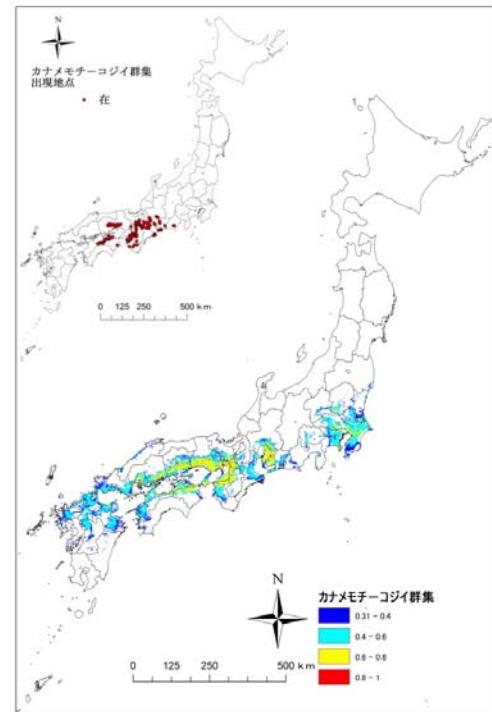
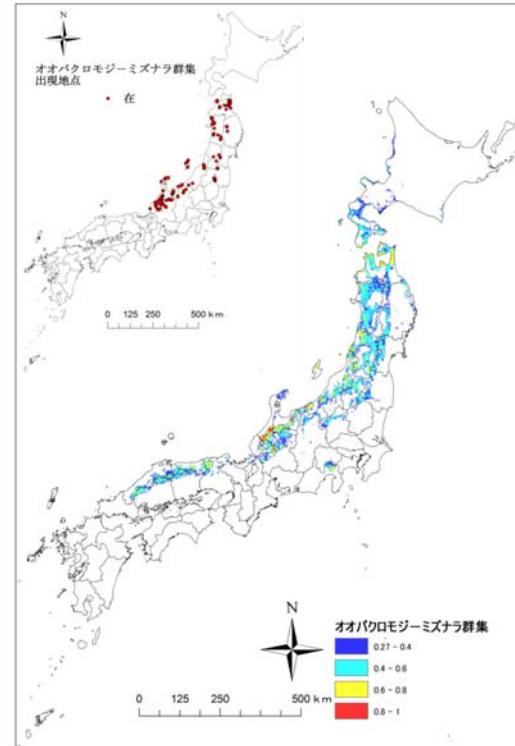
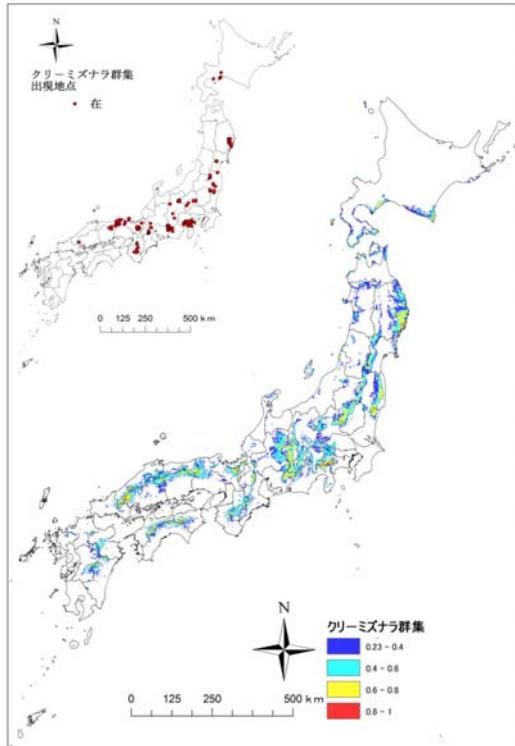
〈解析メッシュ単位〉

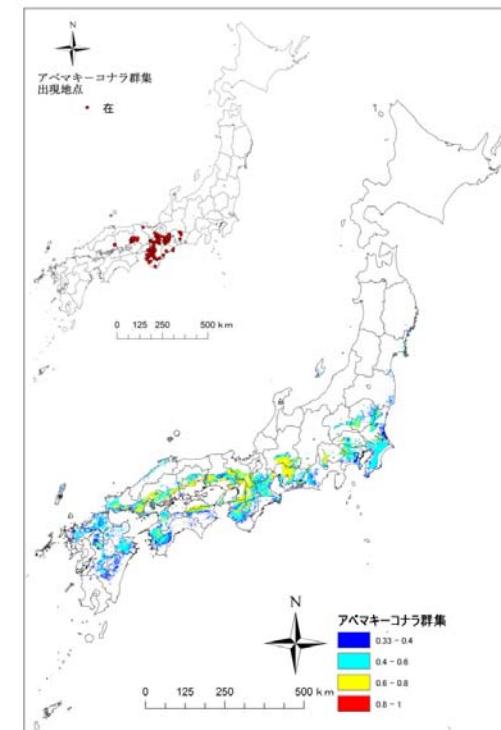
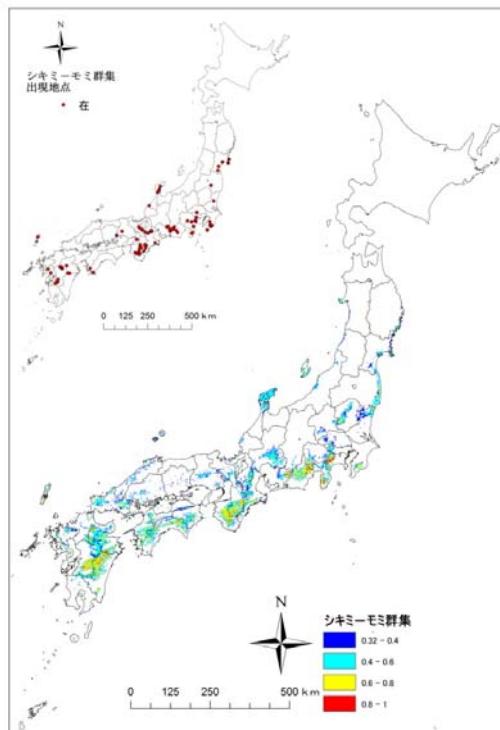
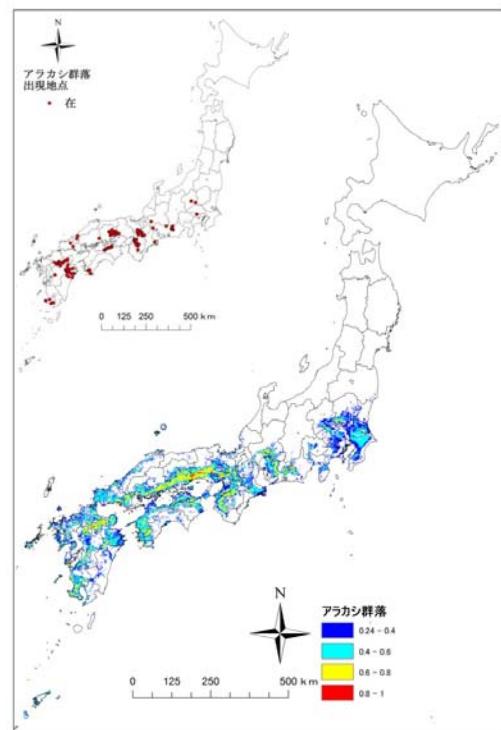
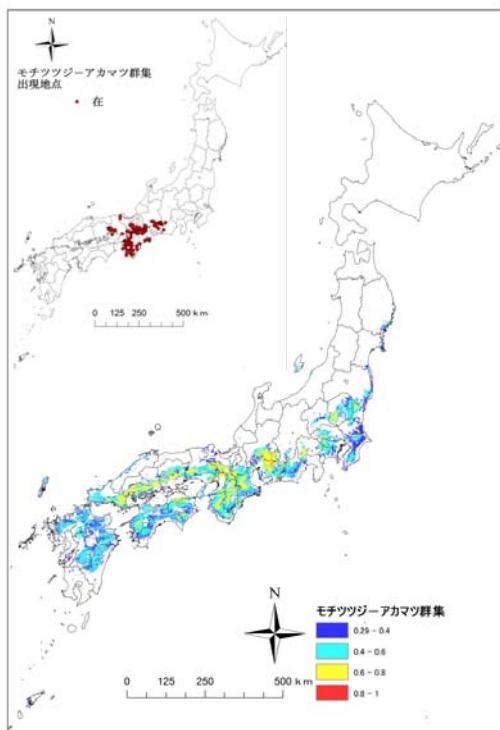
3次メッシュ (1 km×1 km)

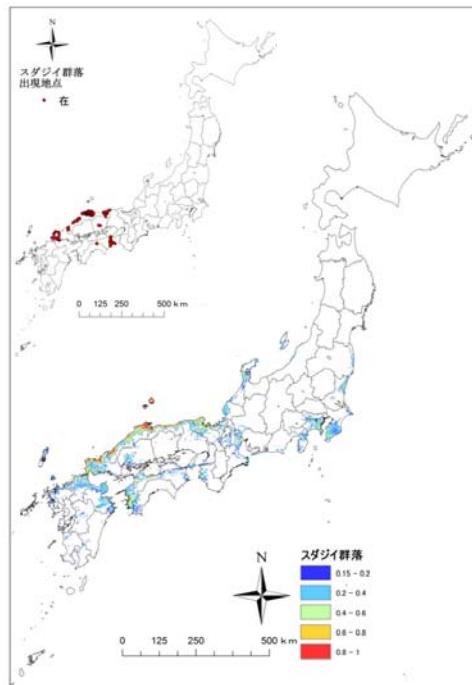
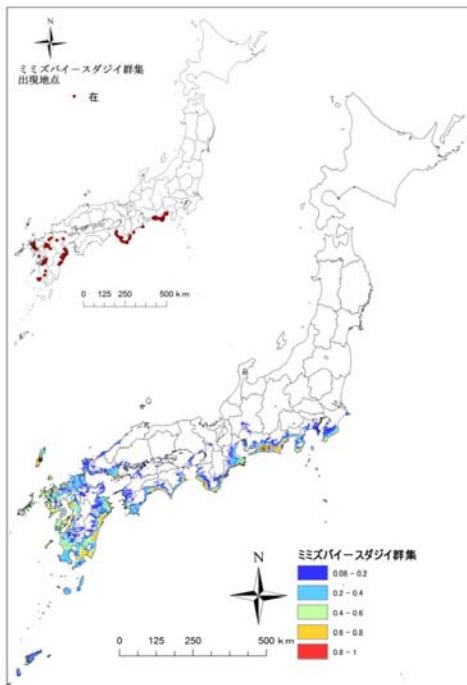
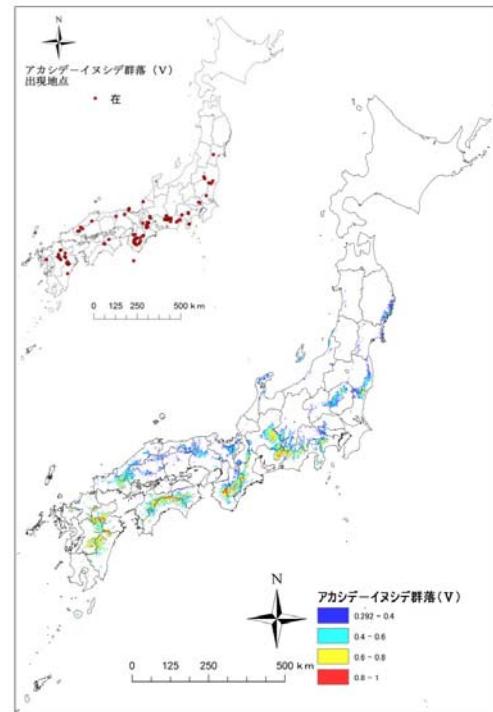
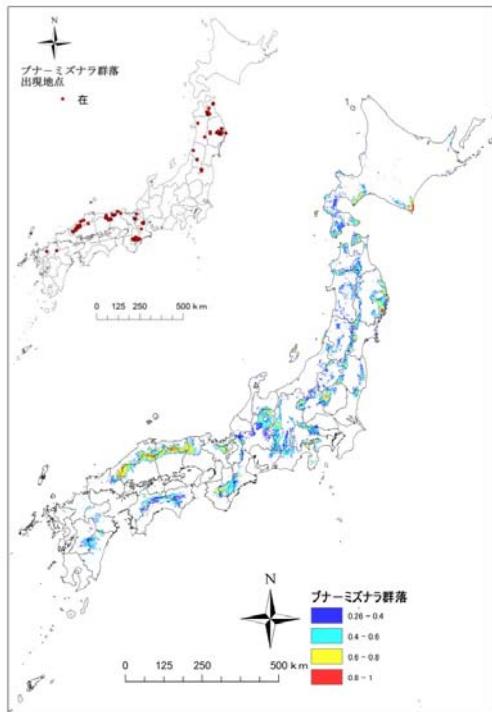
④Maxent解析の結果一森林系の潜在的分布域

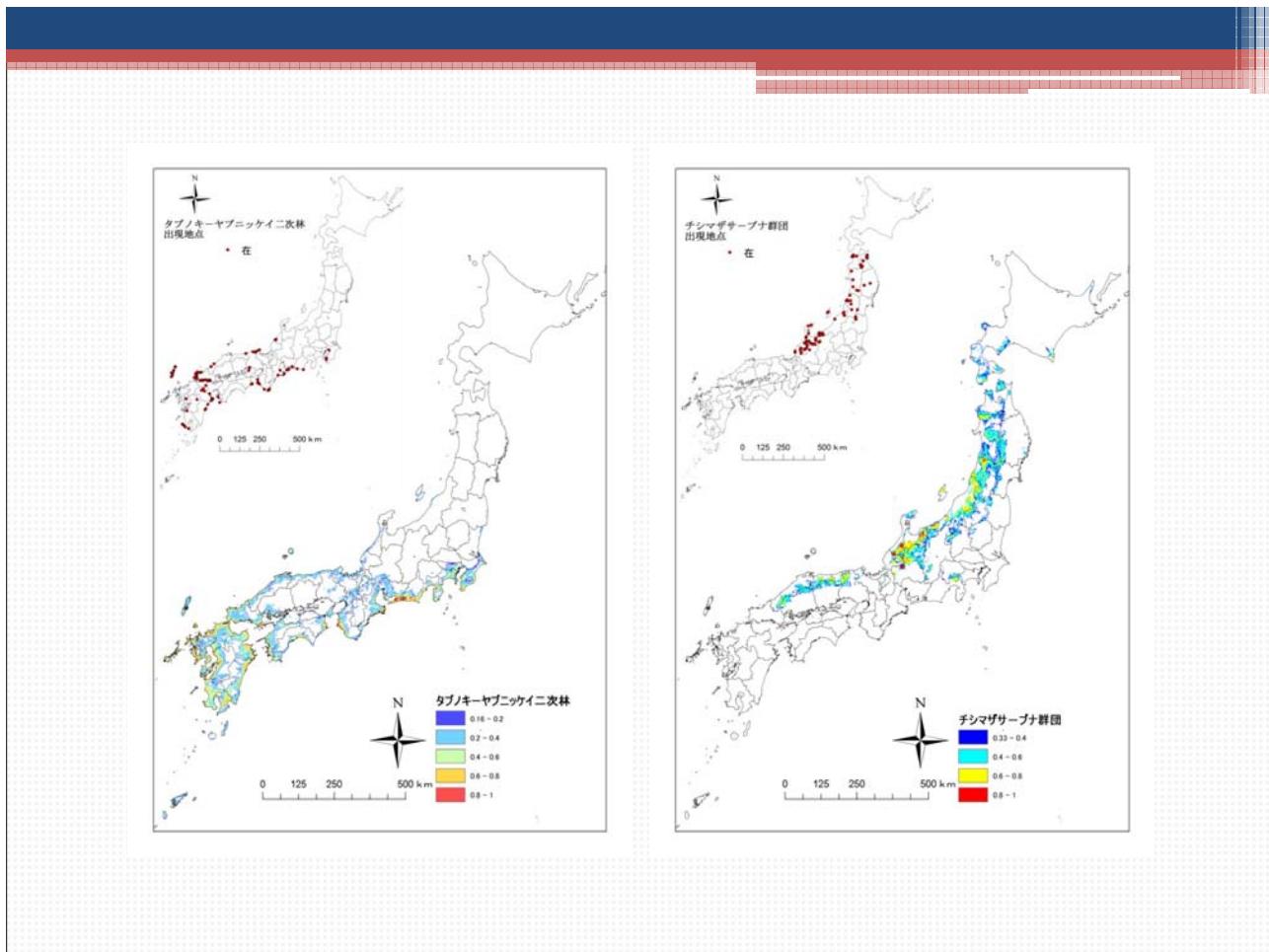
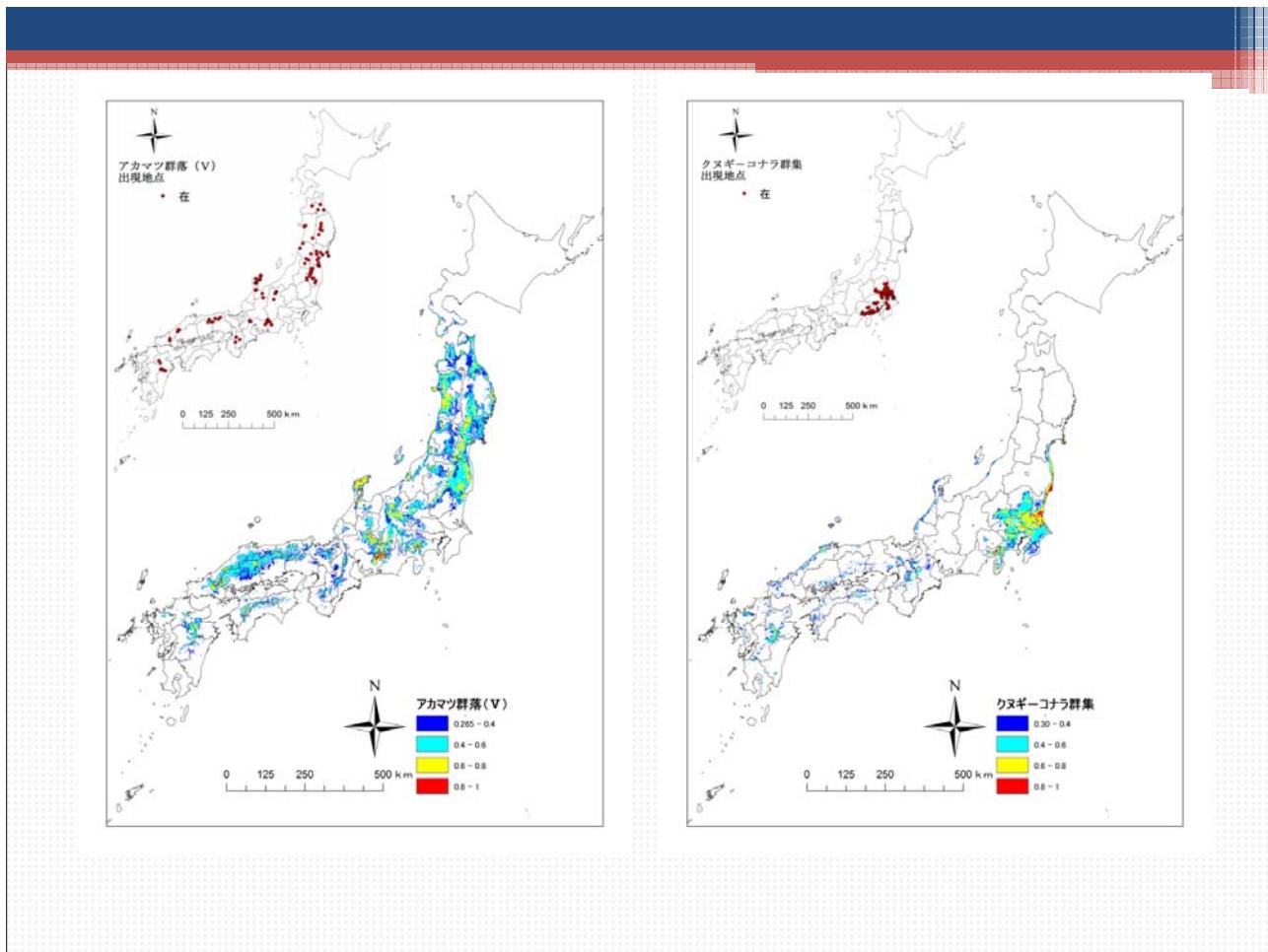


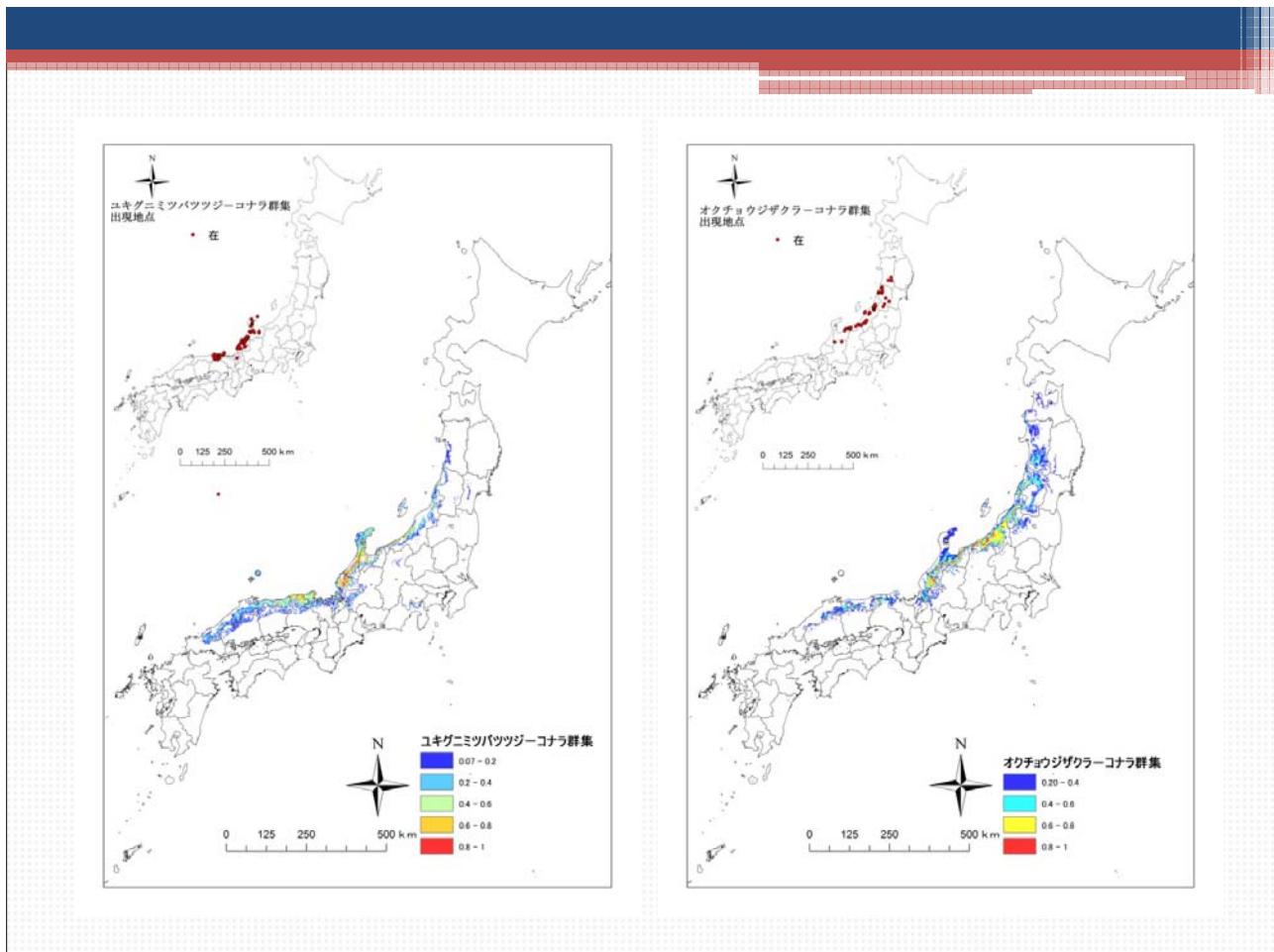
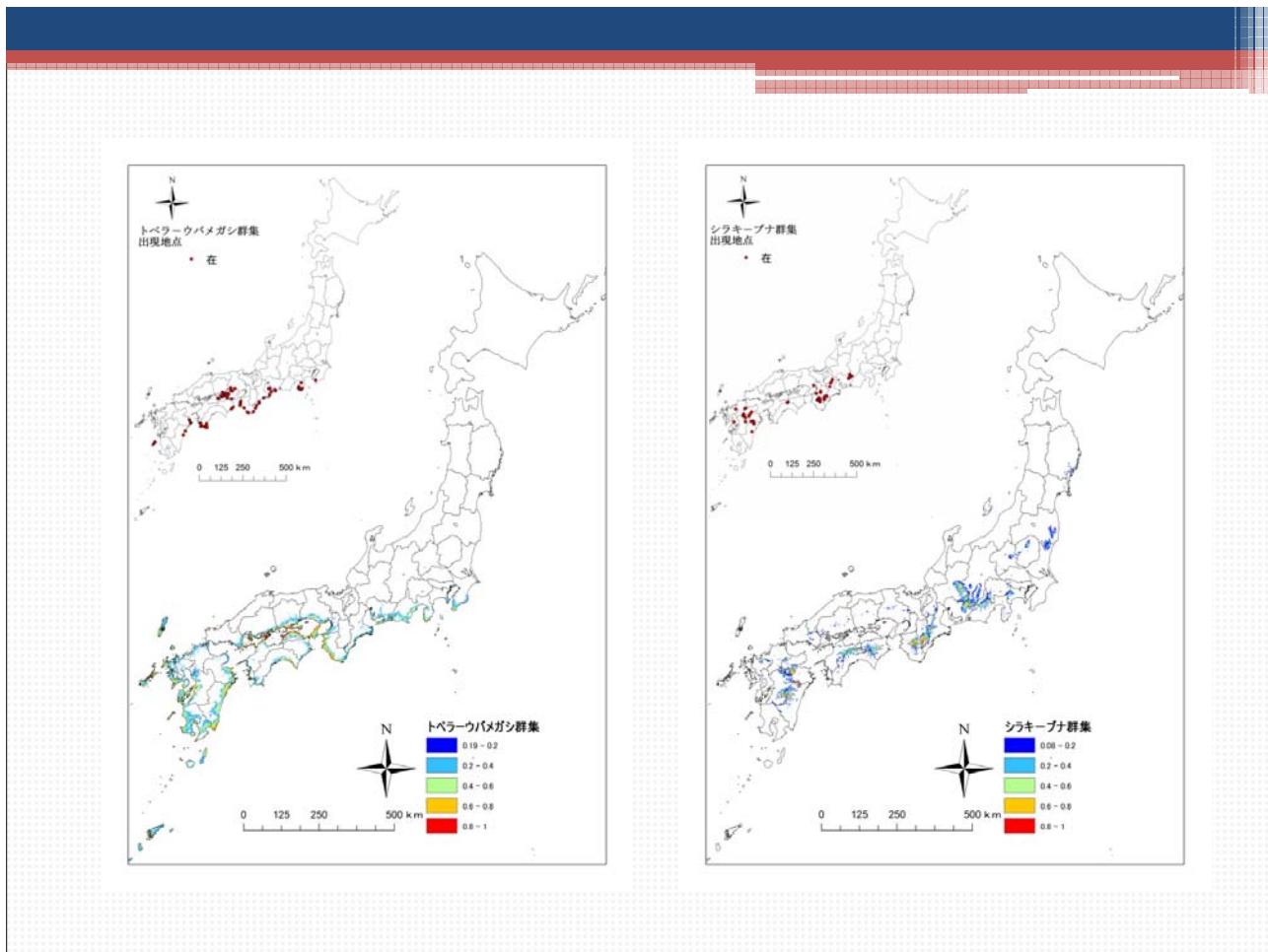


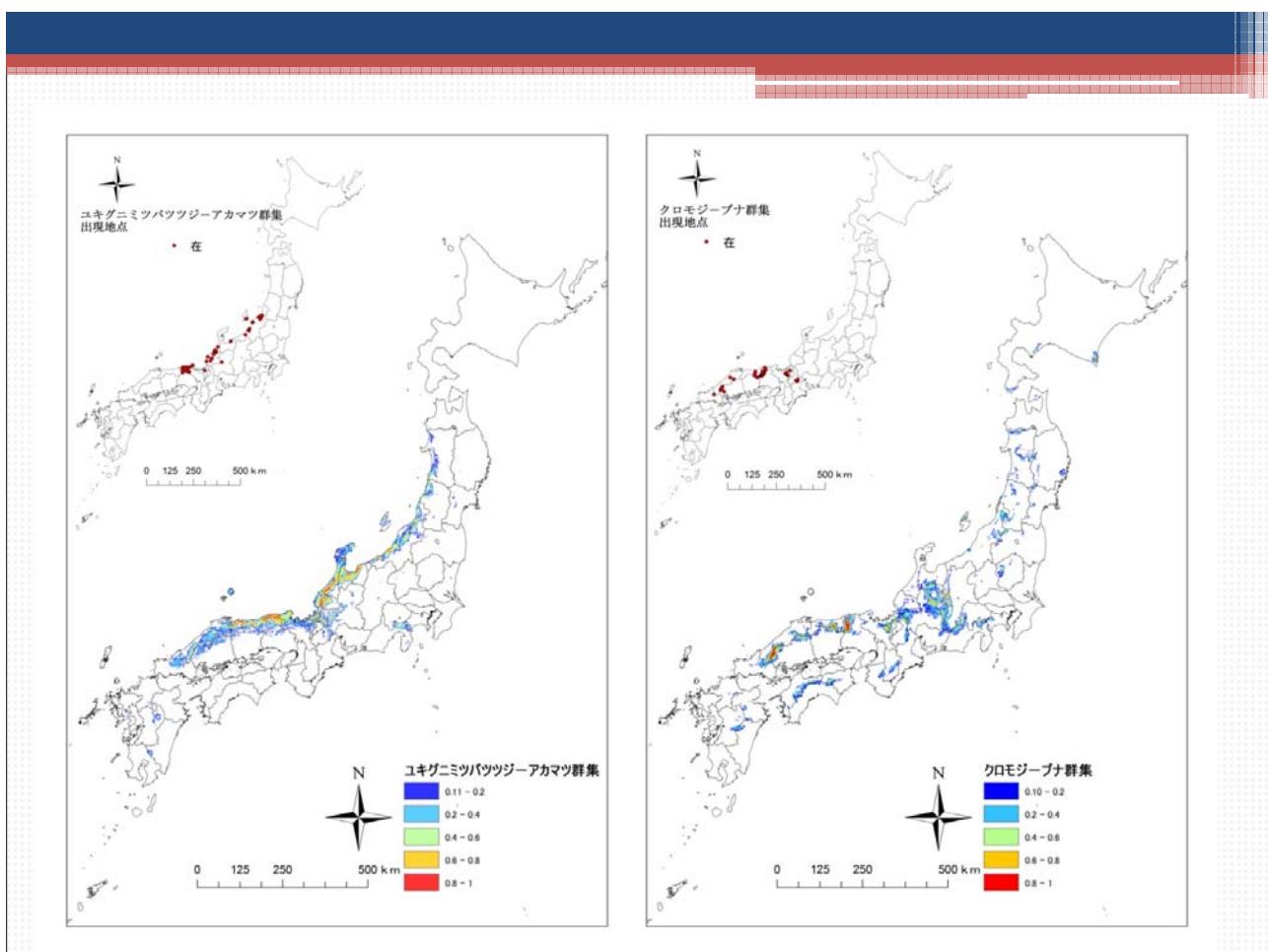
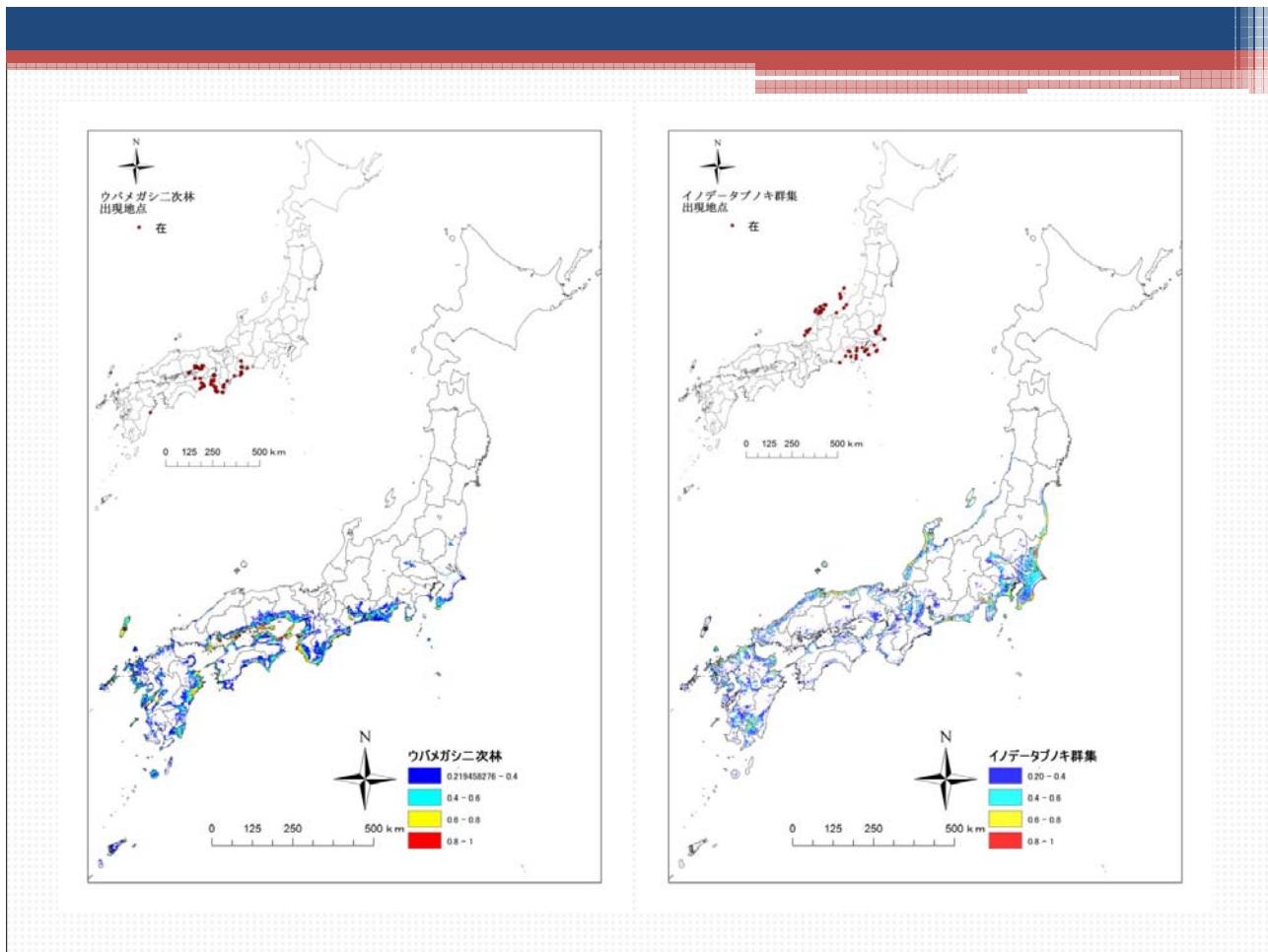


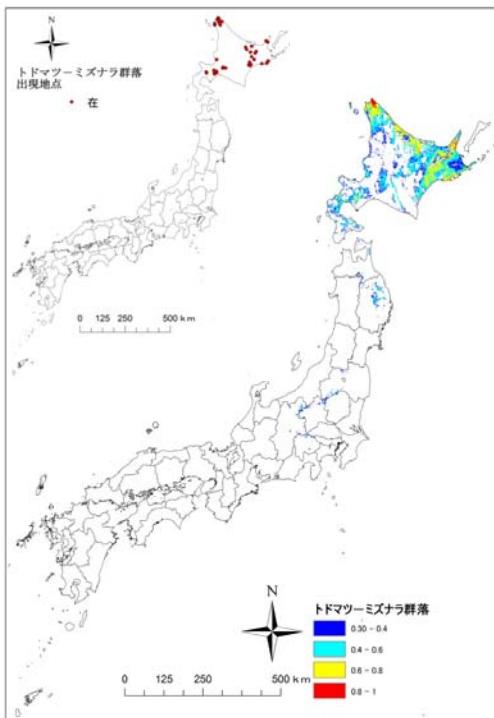
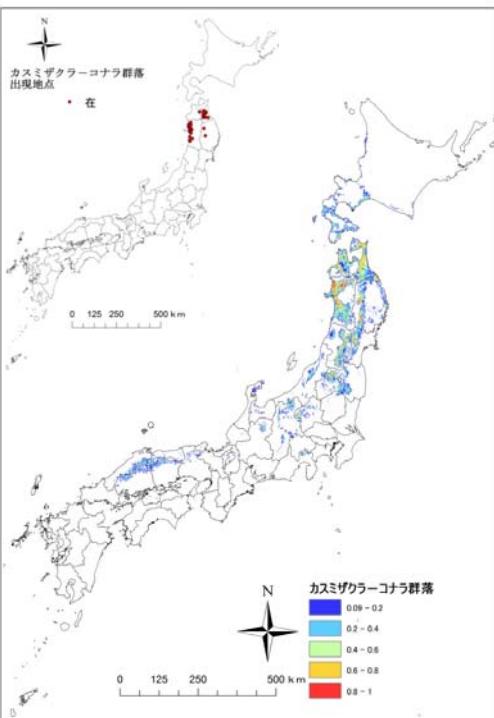
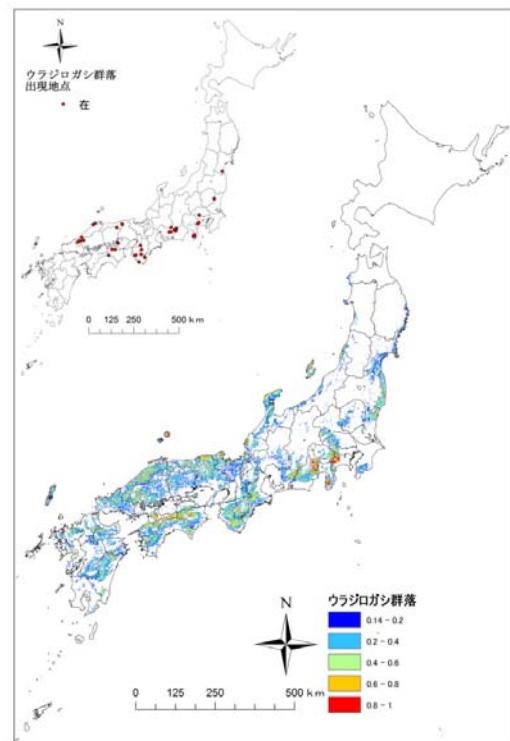
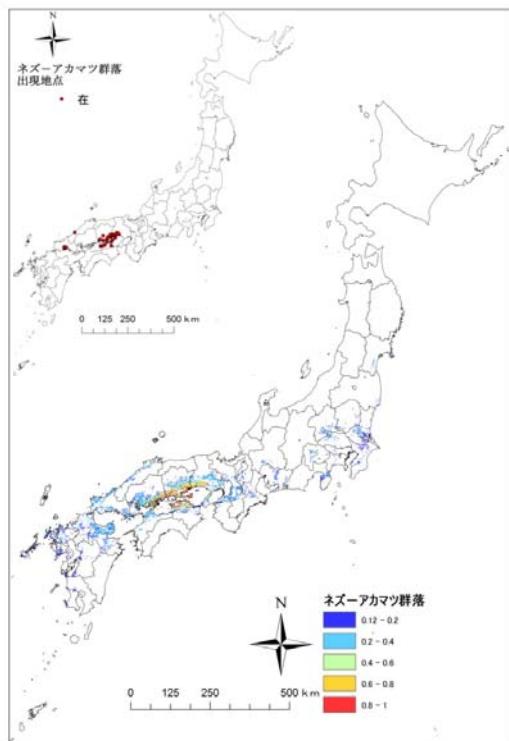


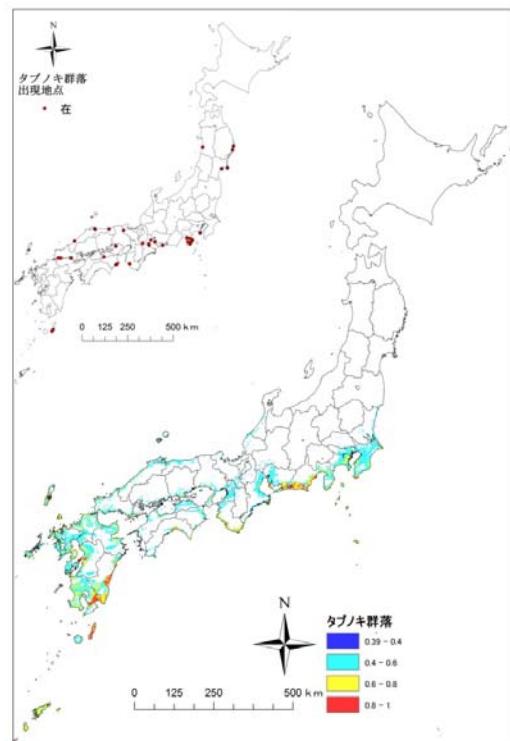
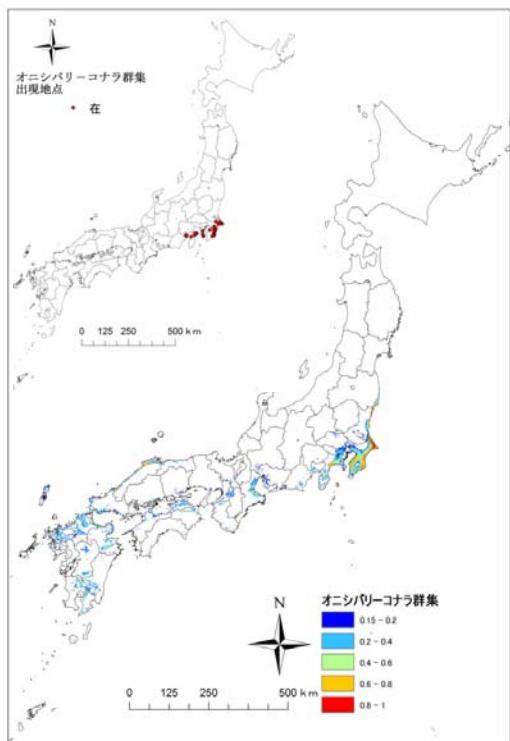
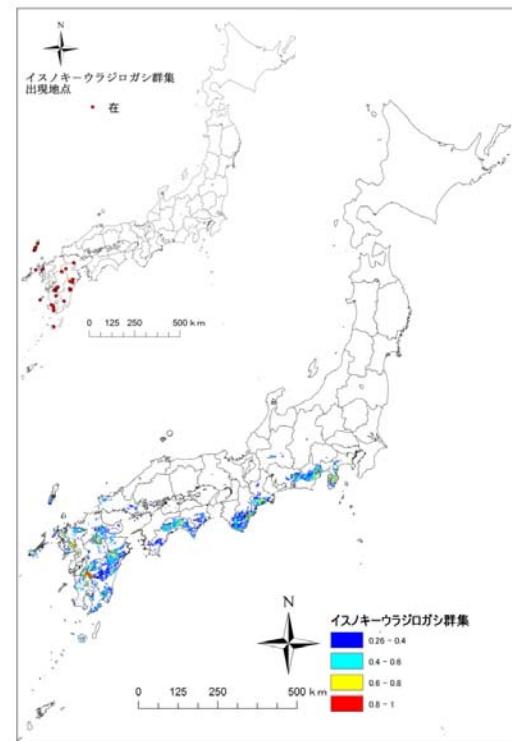
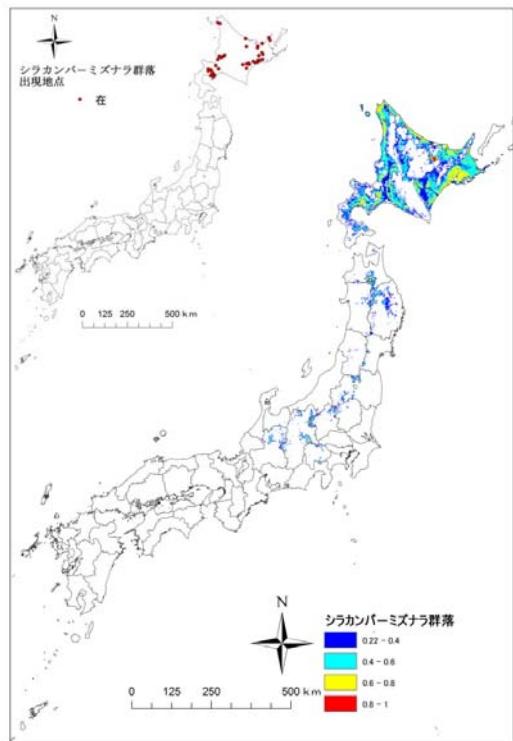


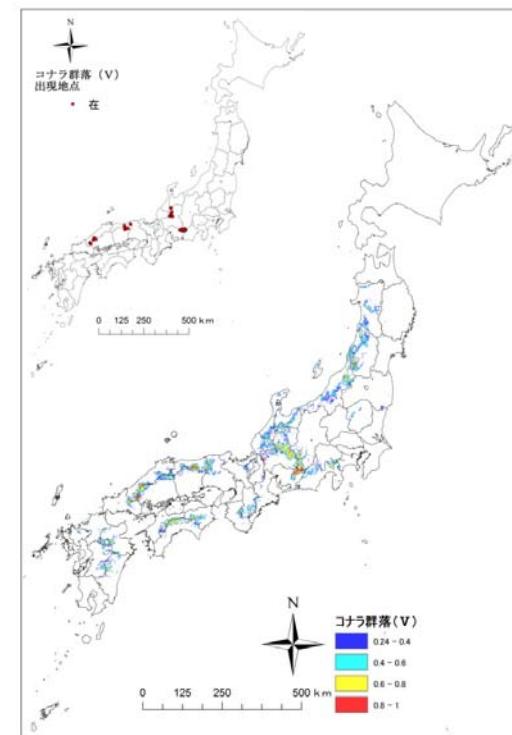
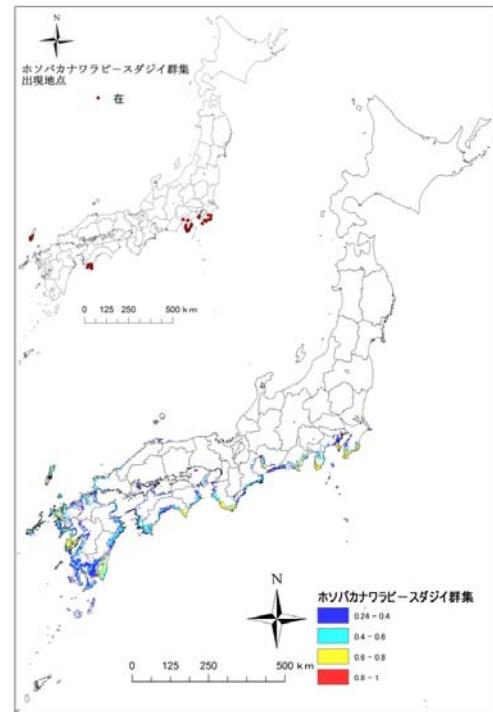
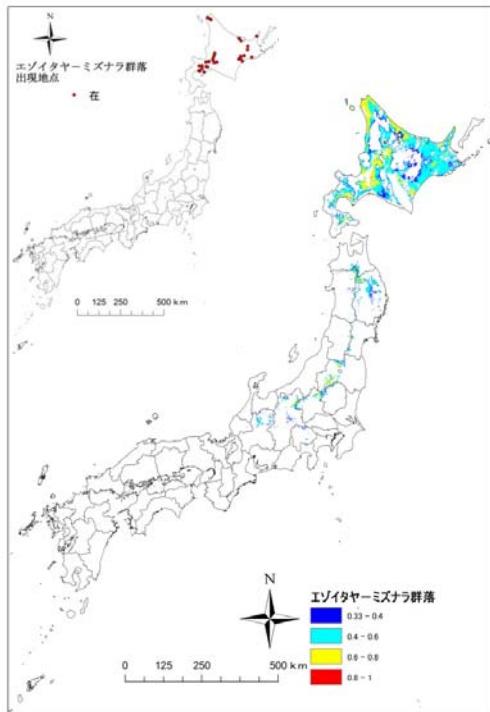


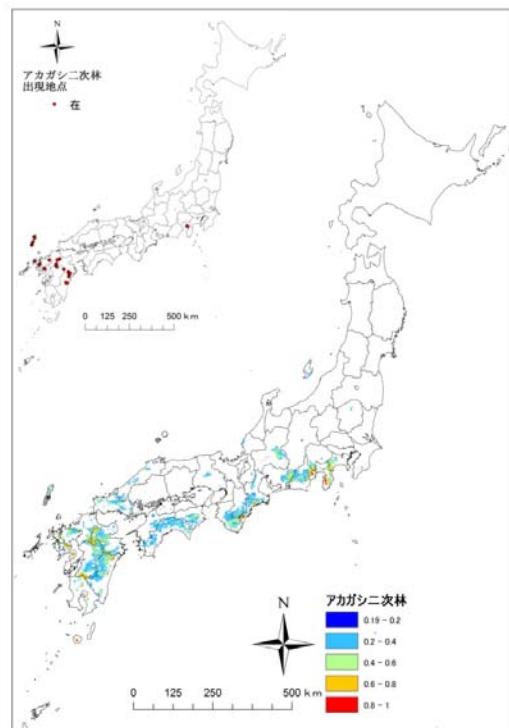
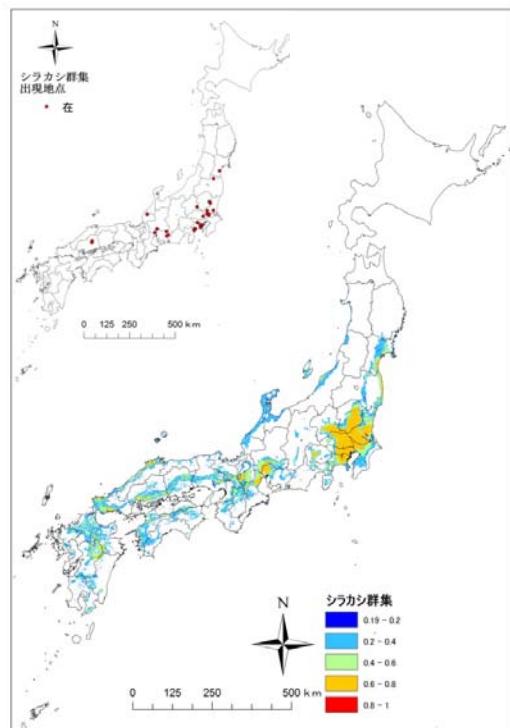
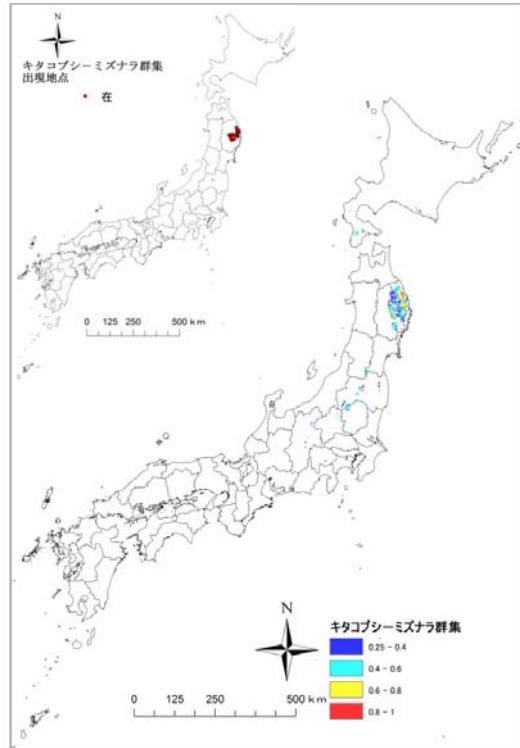
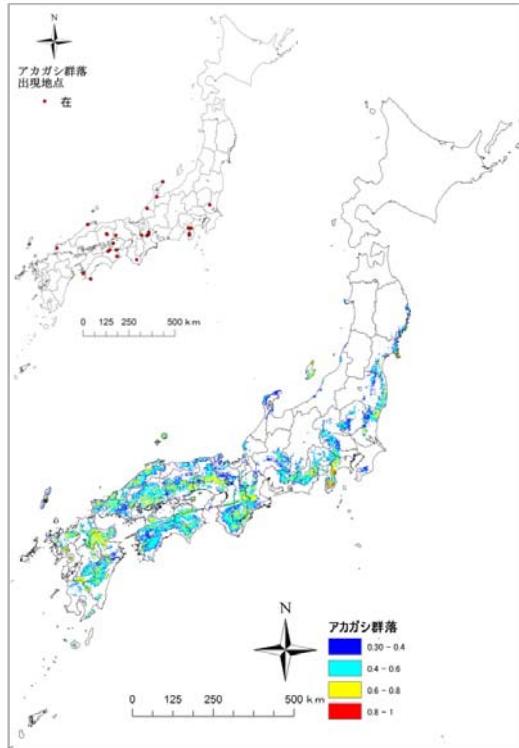


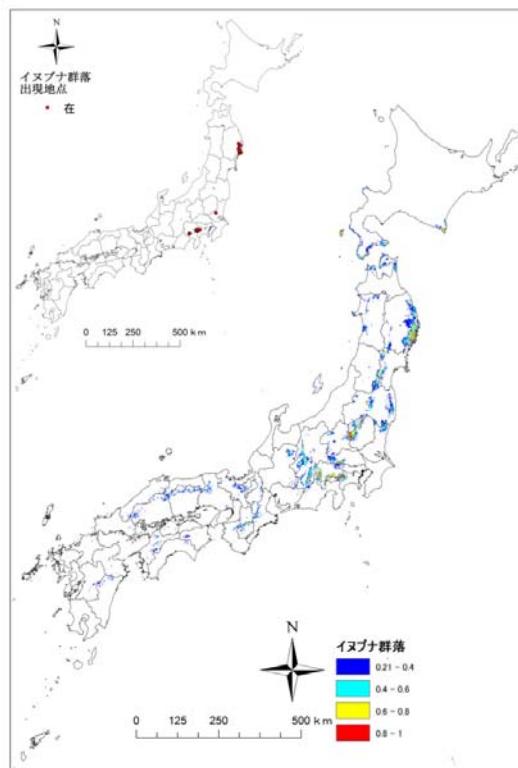
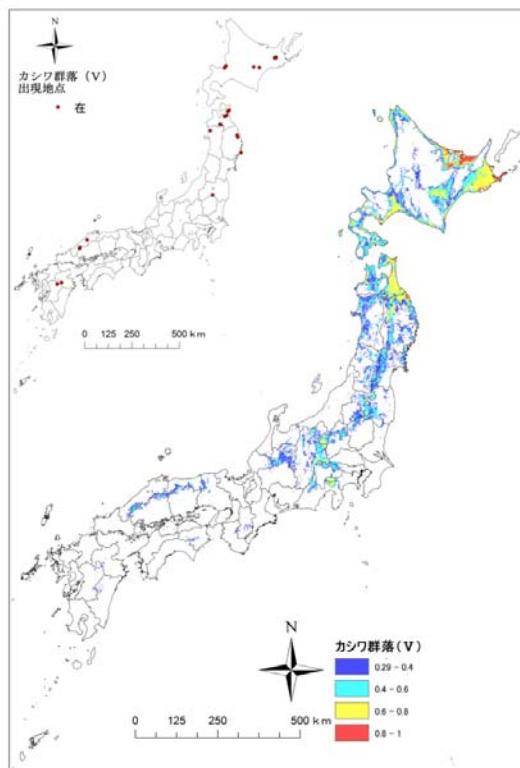
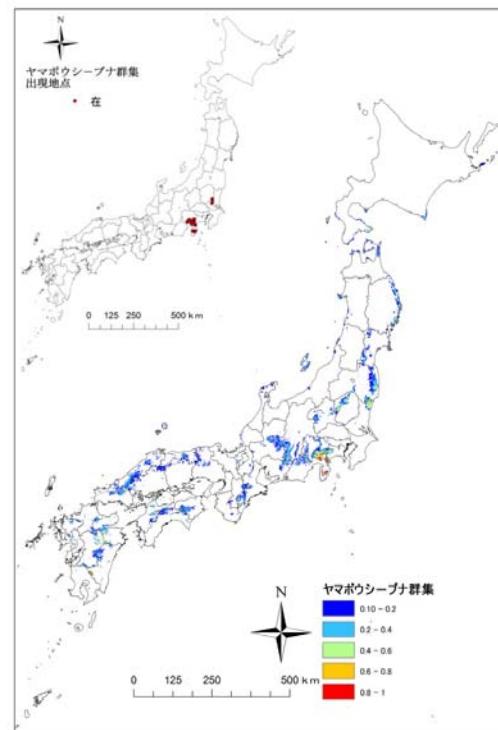
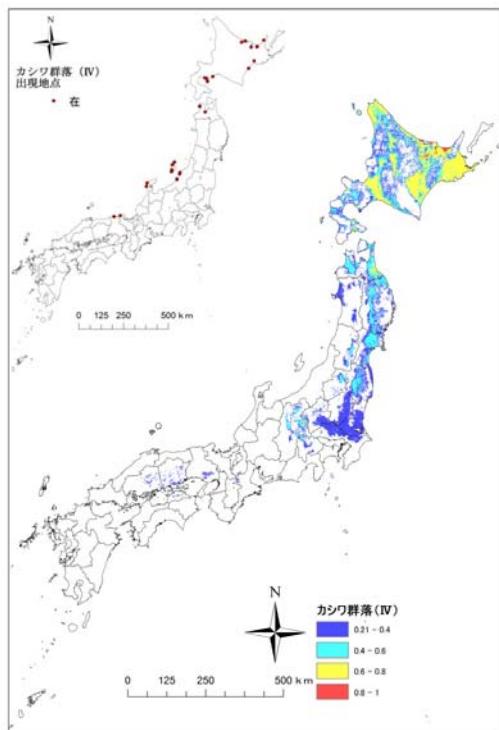


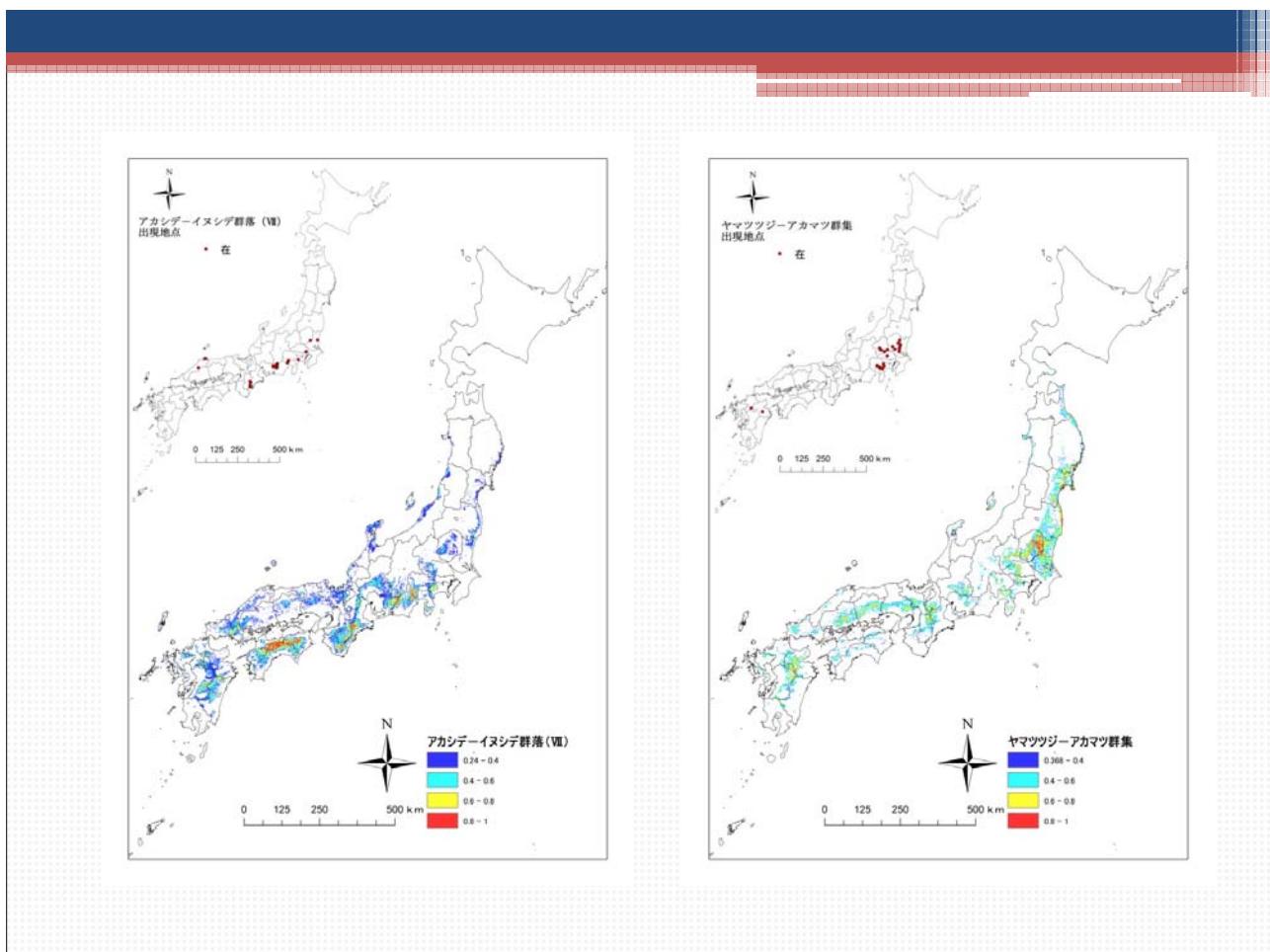
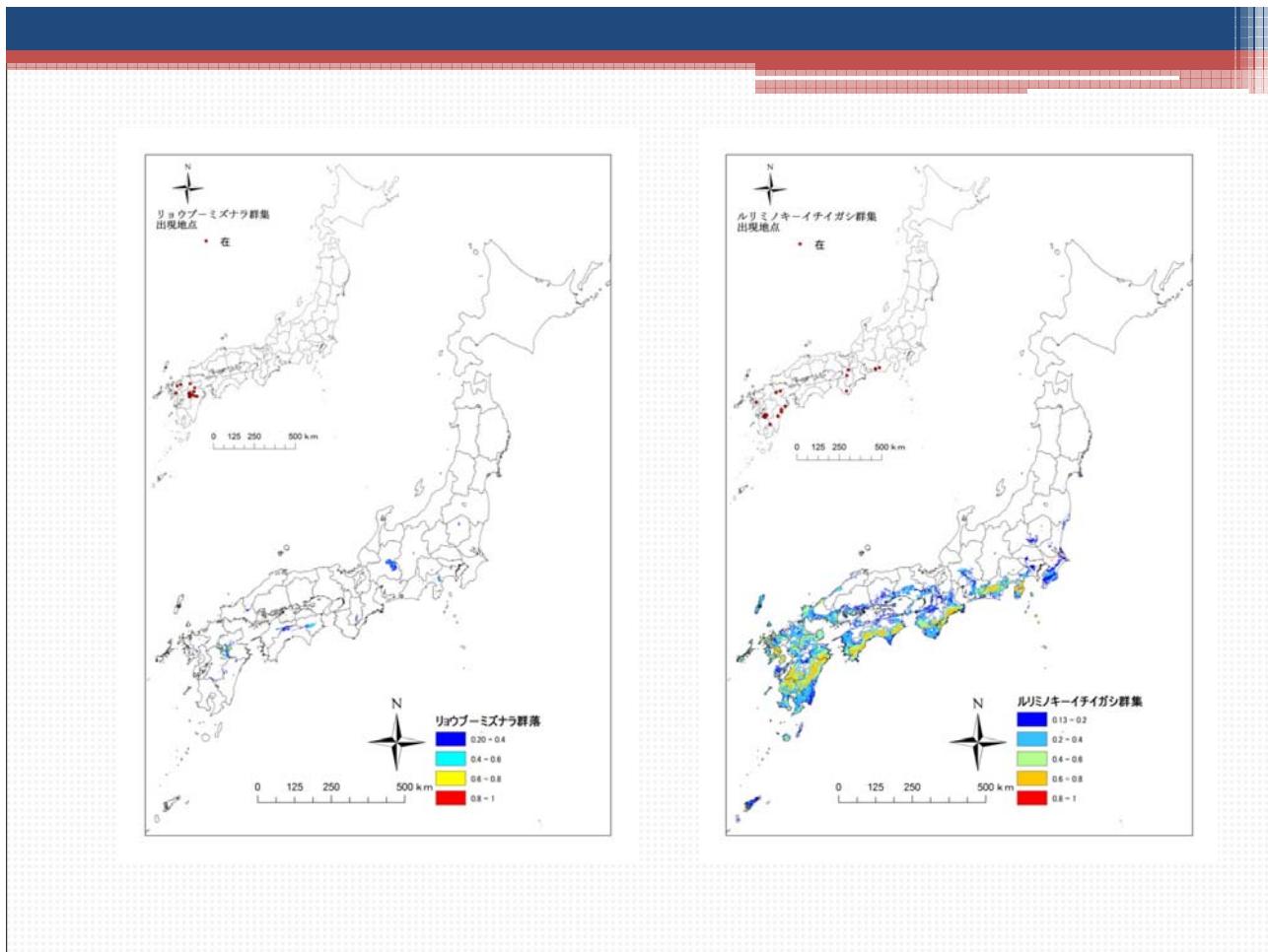


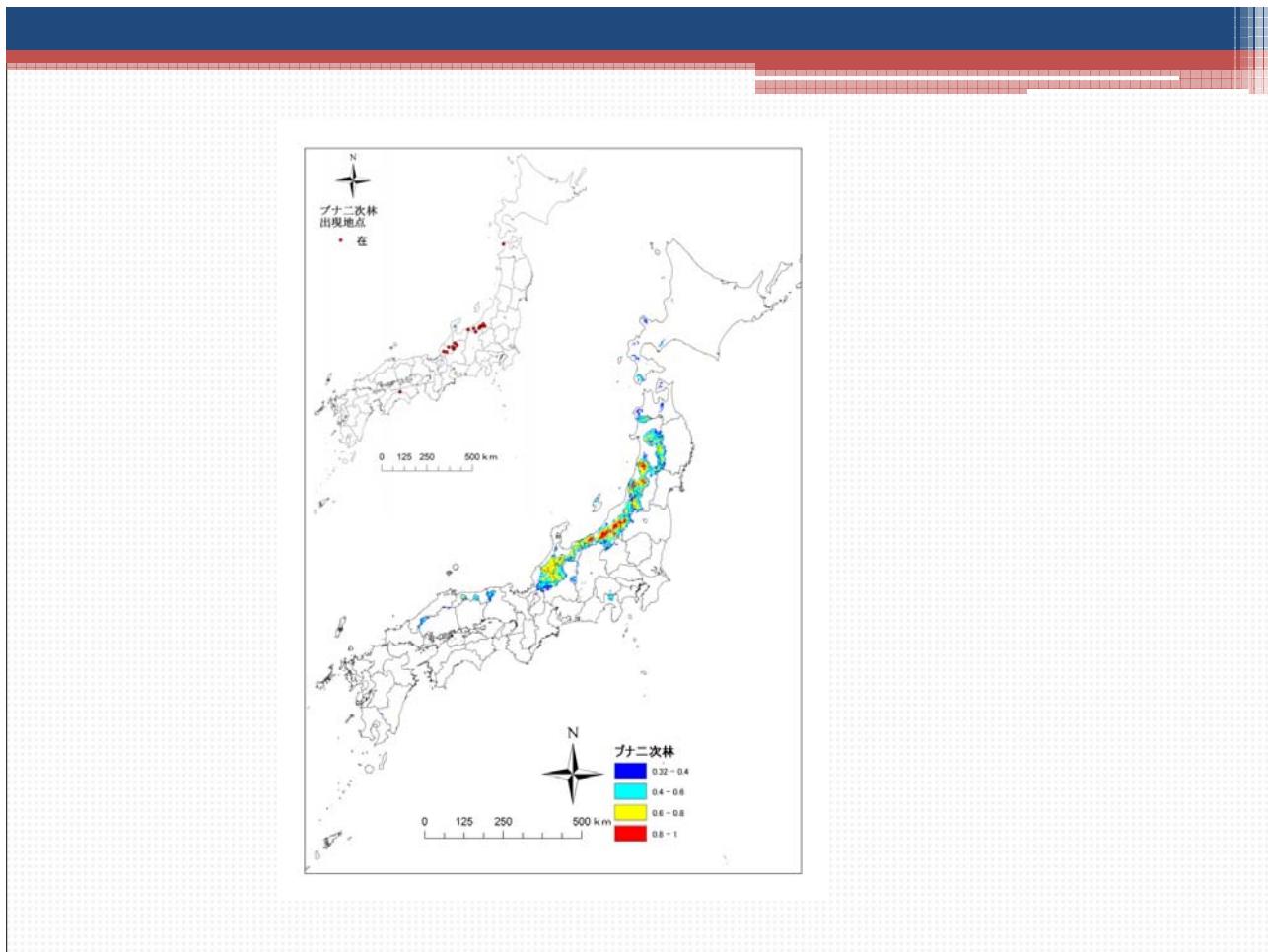




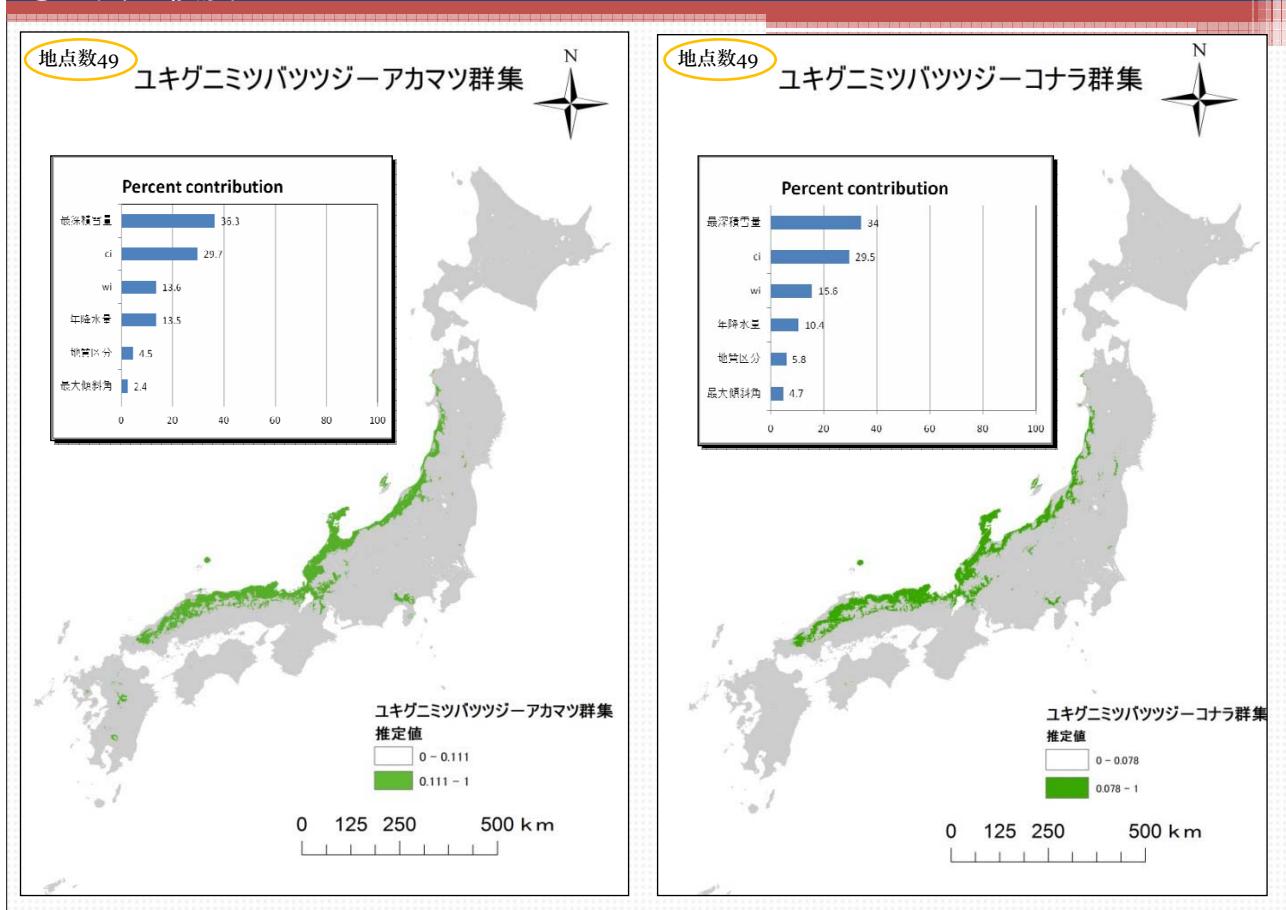






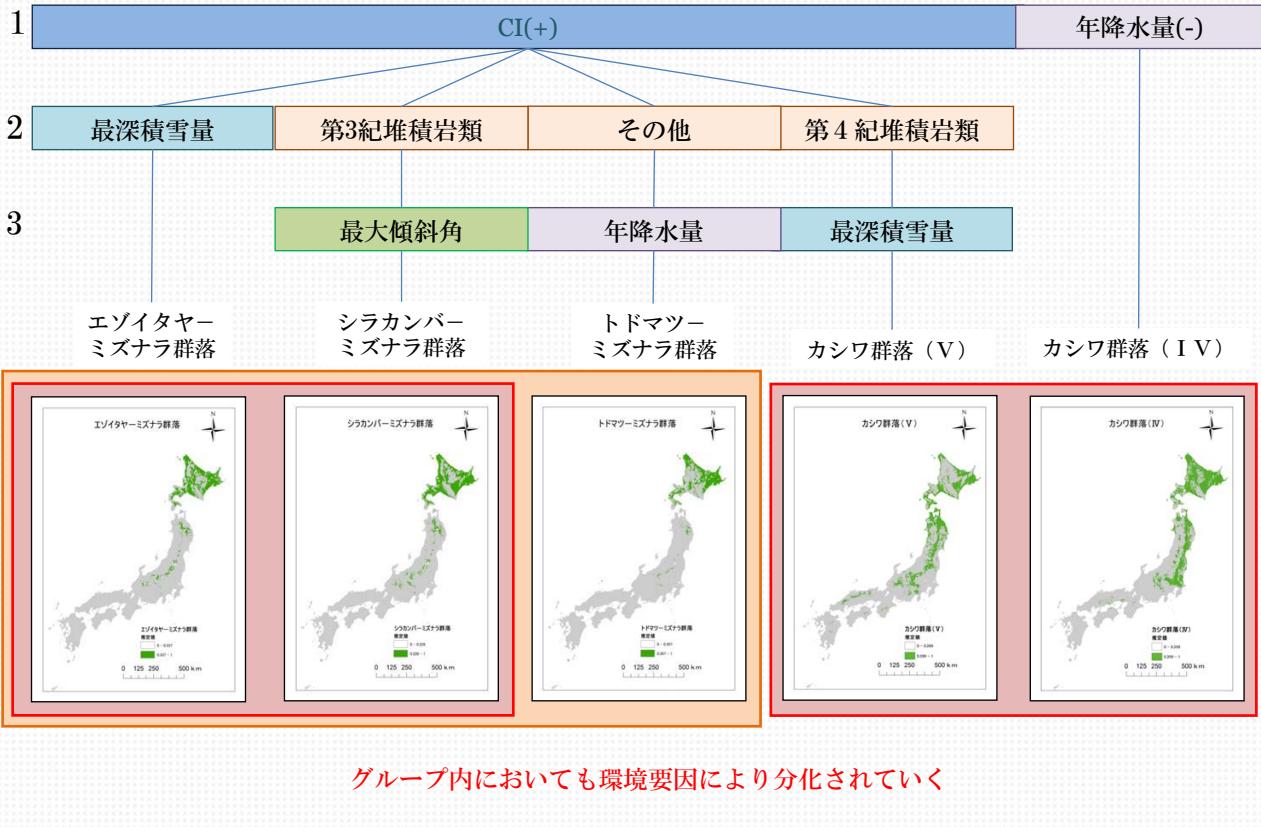


⑤空間重複度

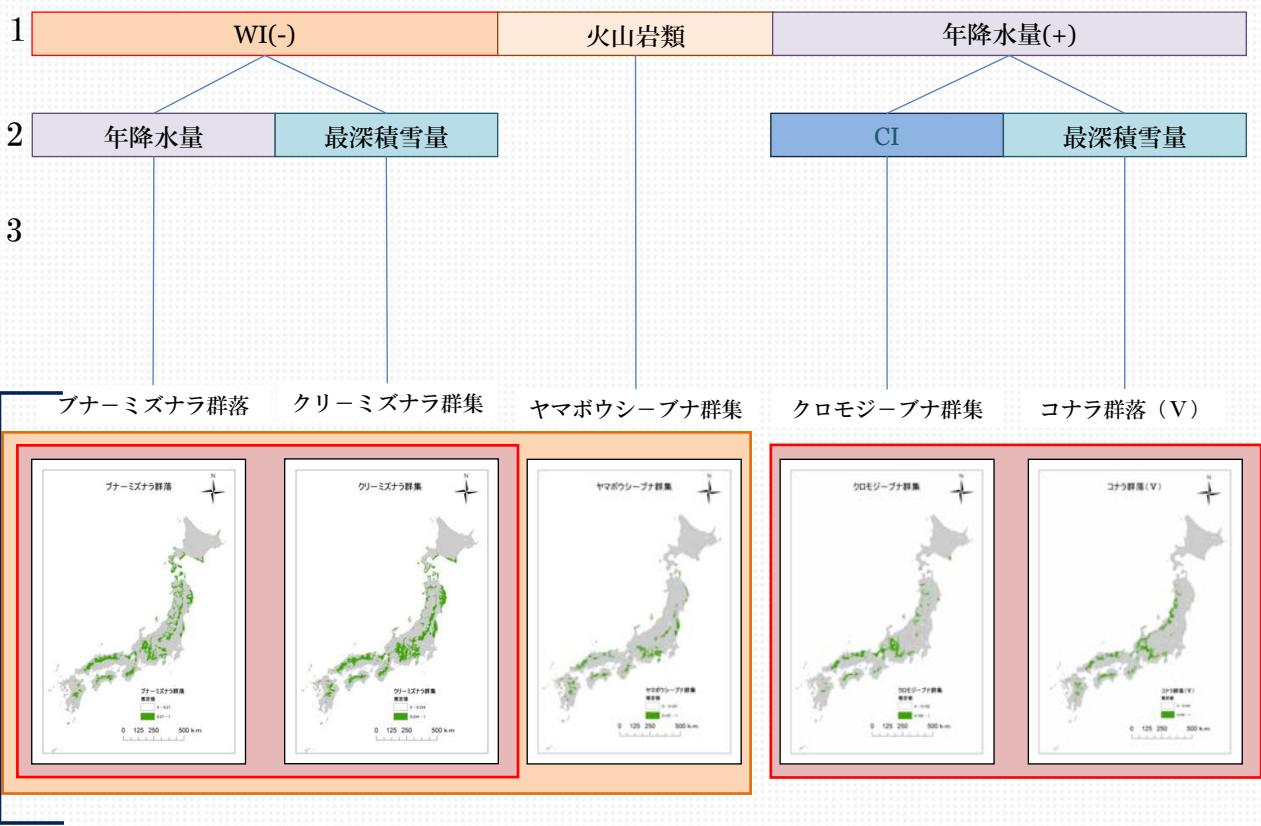


⑦森林型の類型化と環境要因との対応

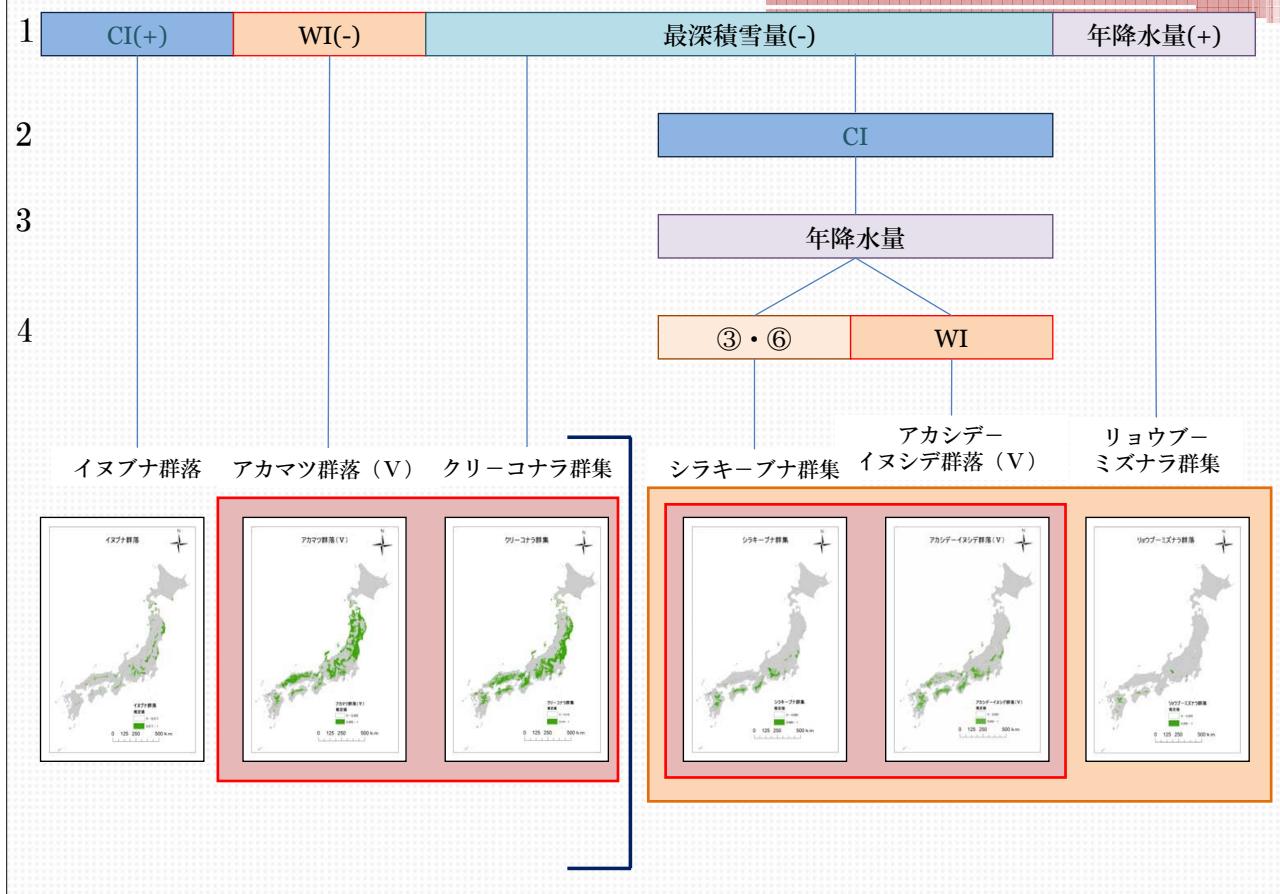
Aグループ内でクラスターと環境要因の関係



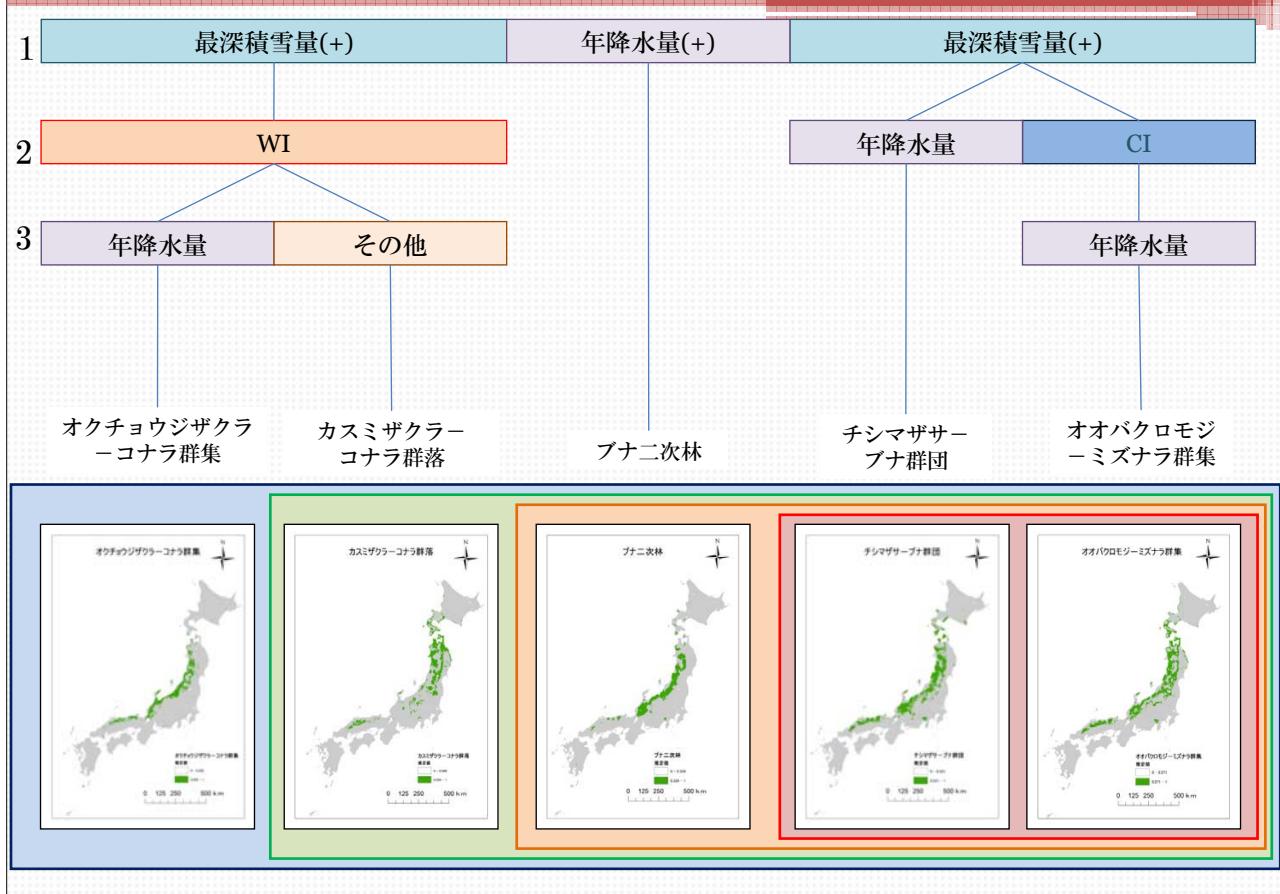
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



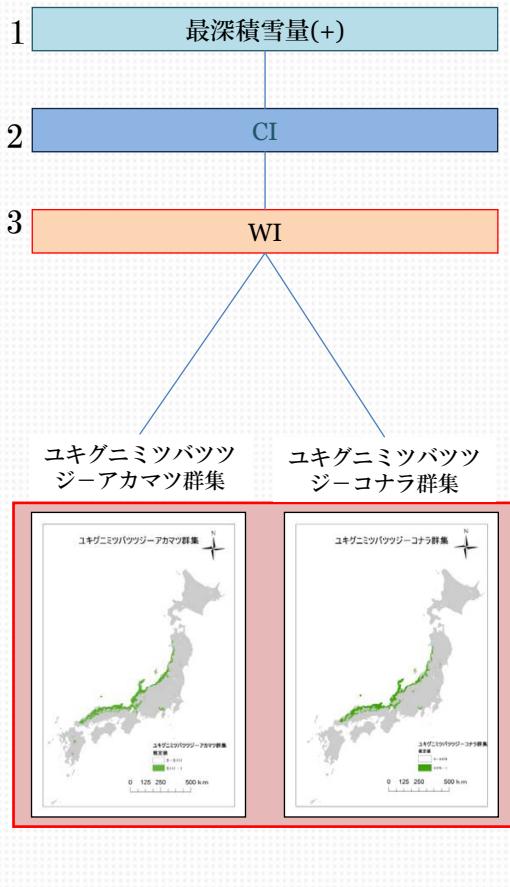
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



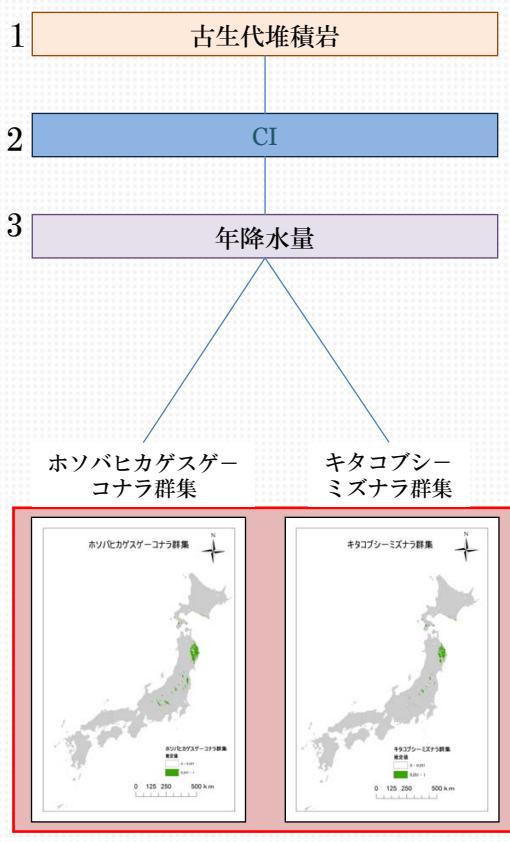
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



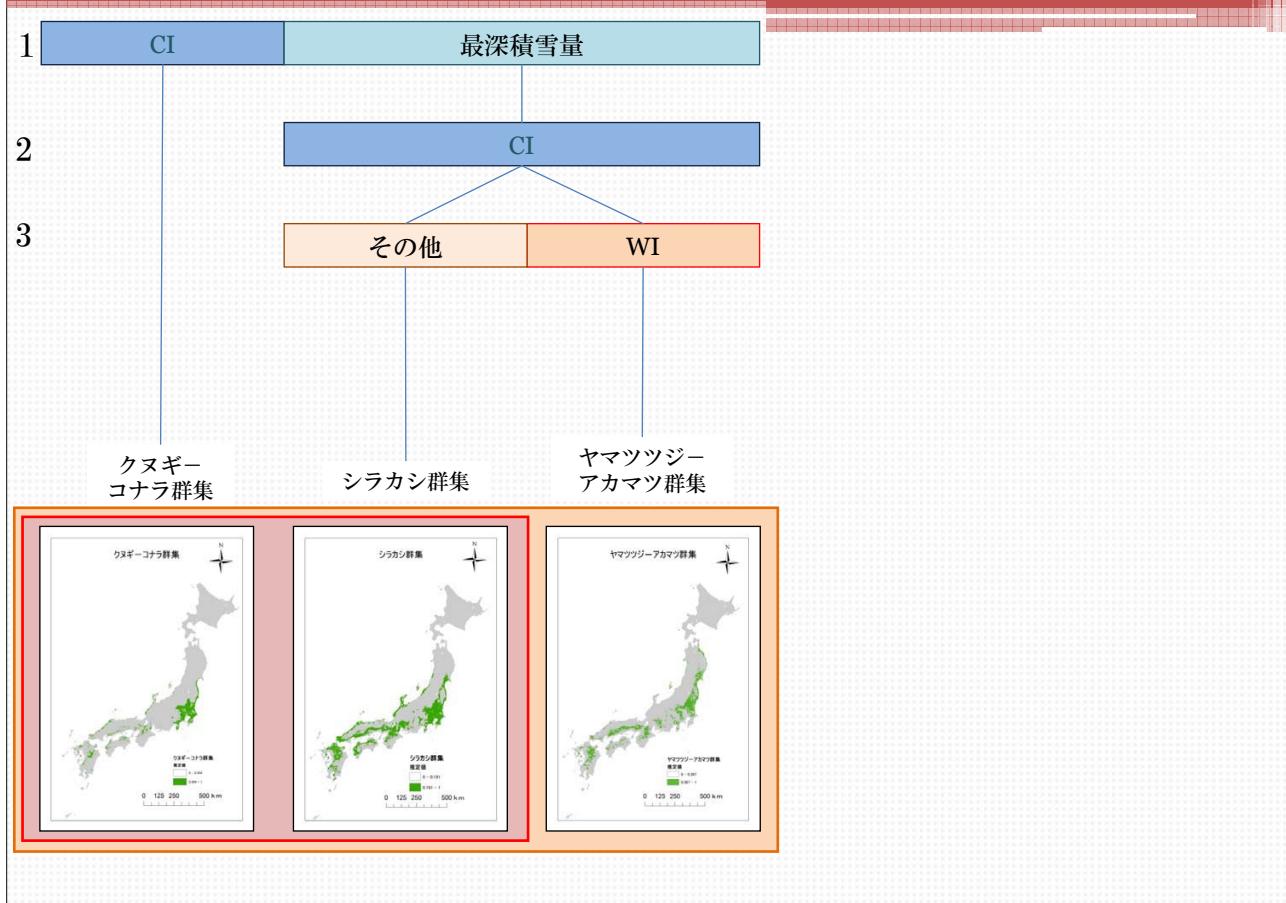
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



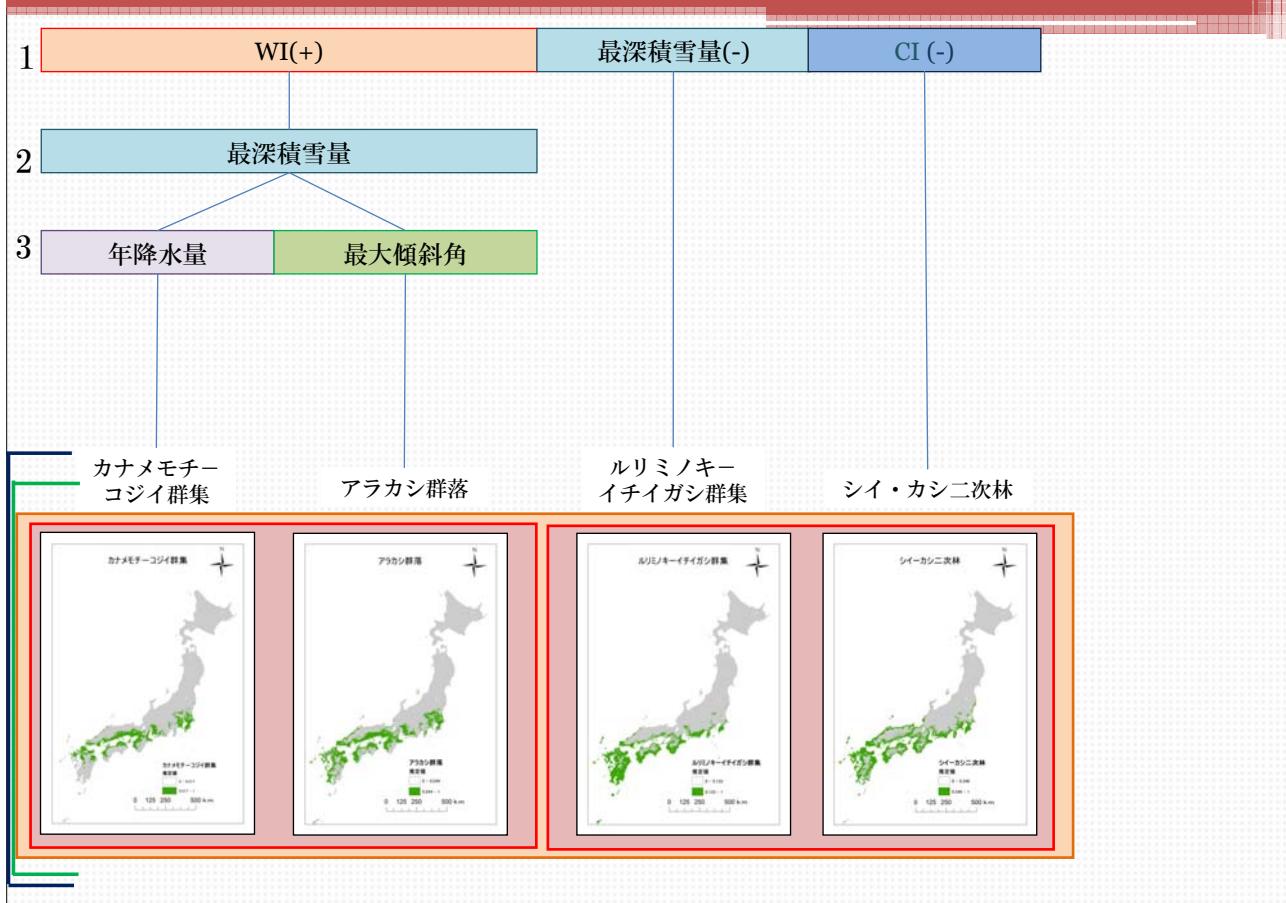
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



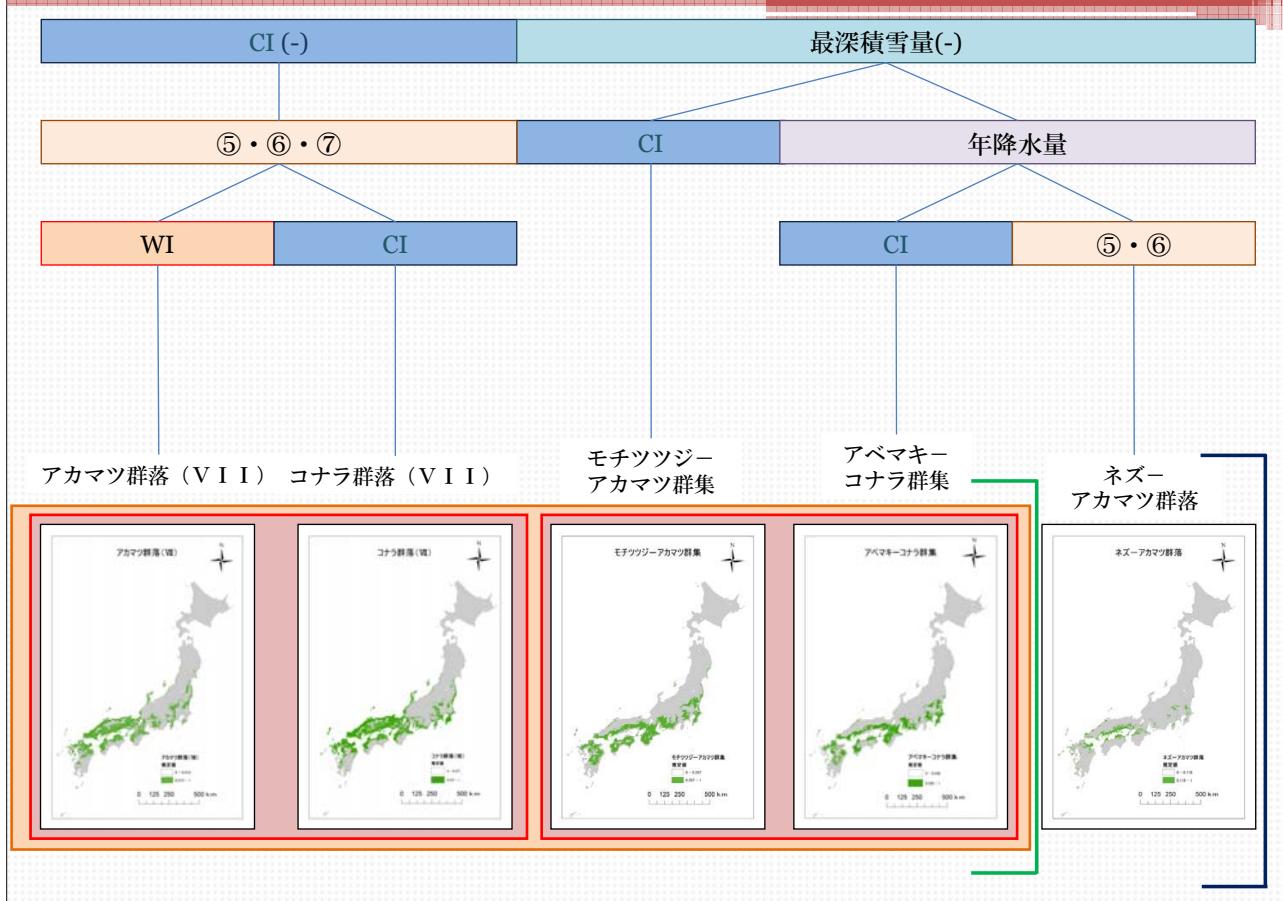
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



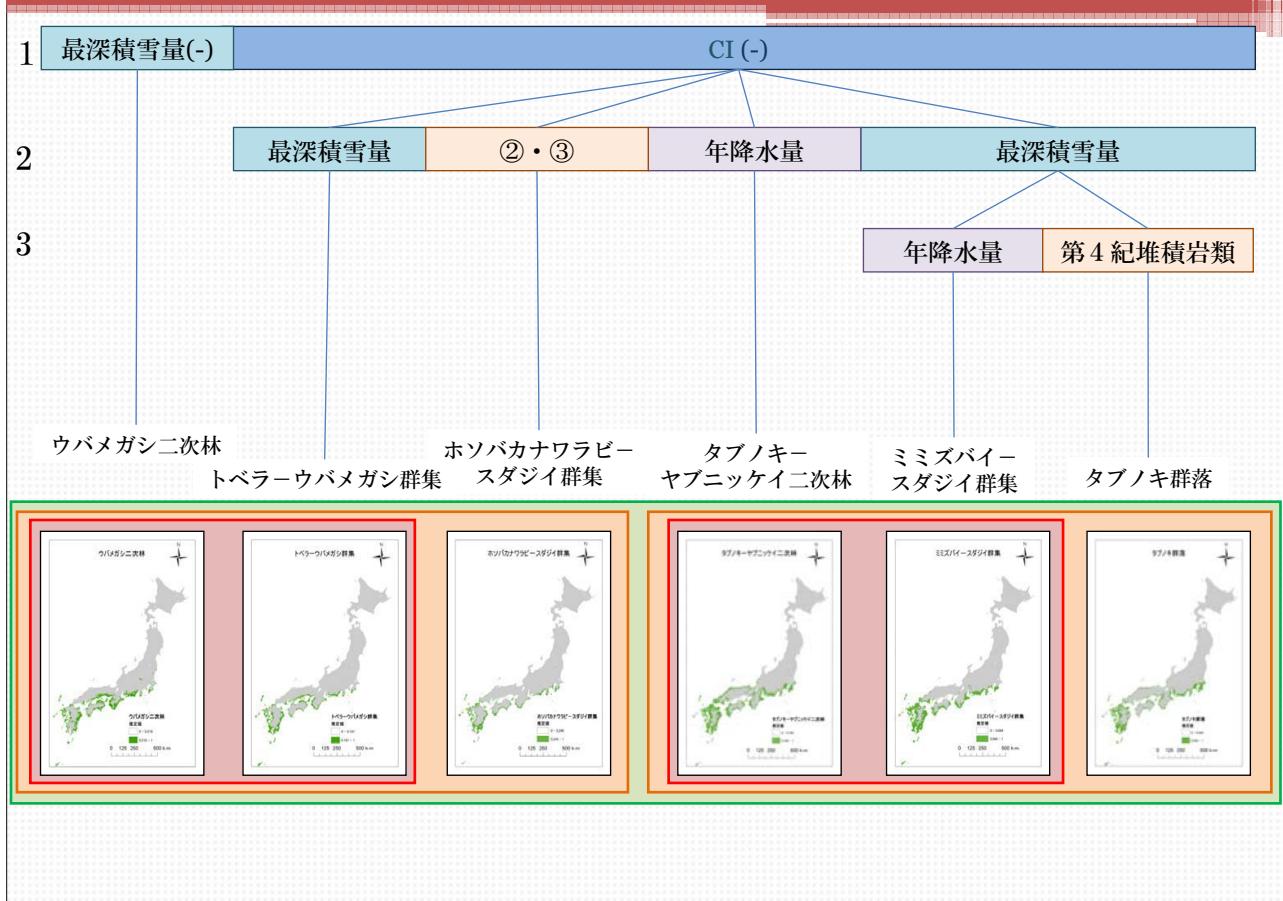
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



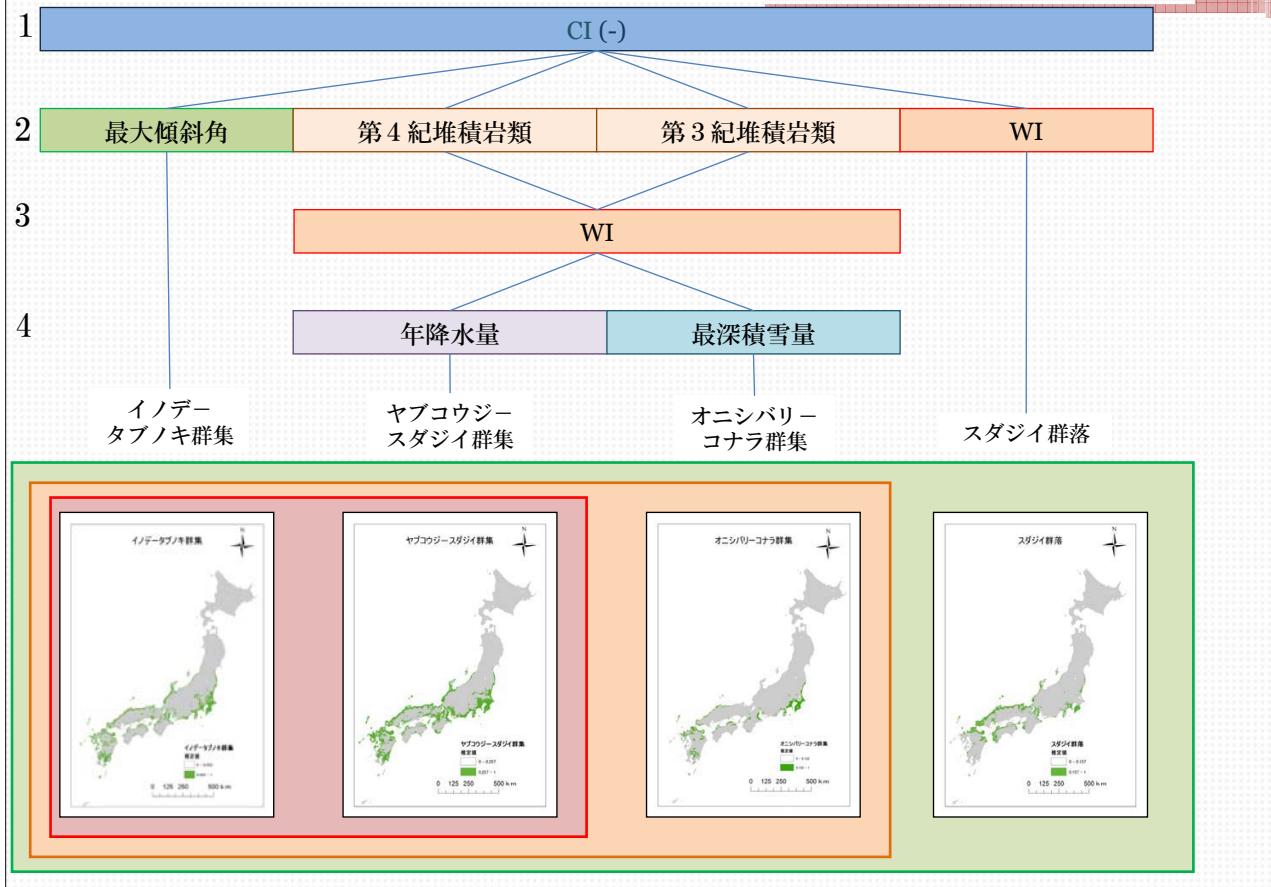
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



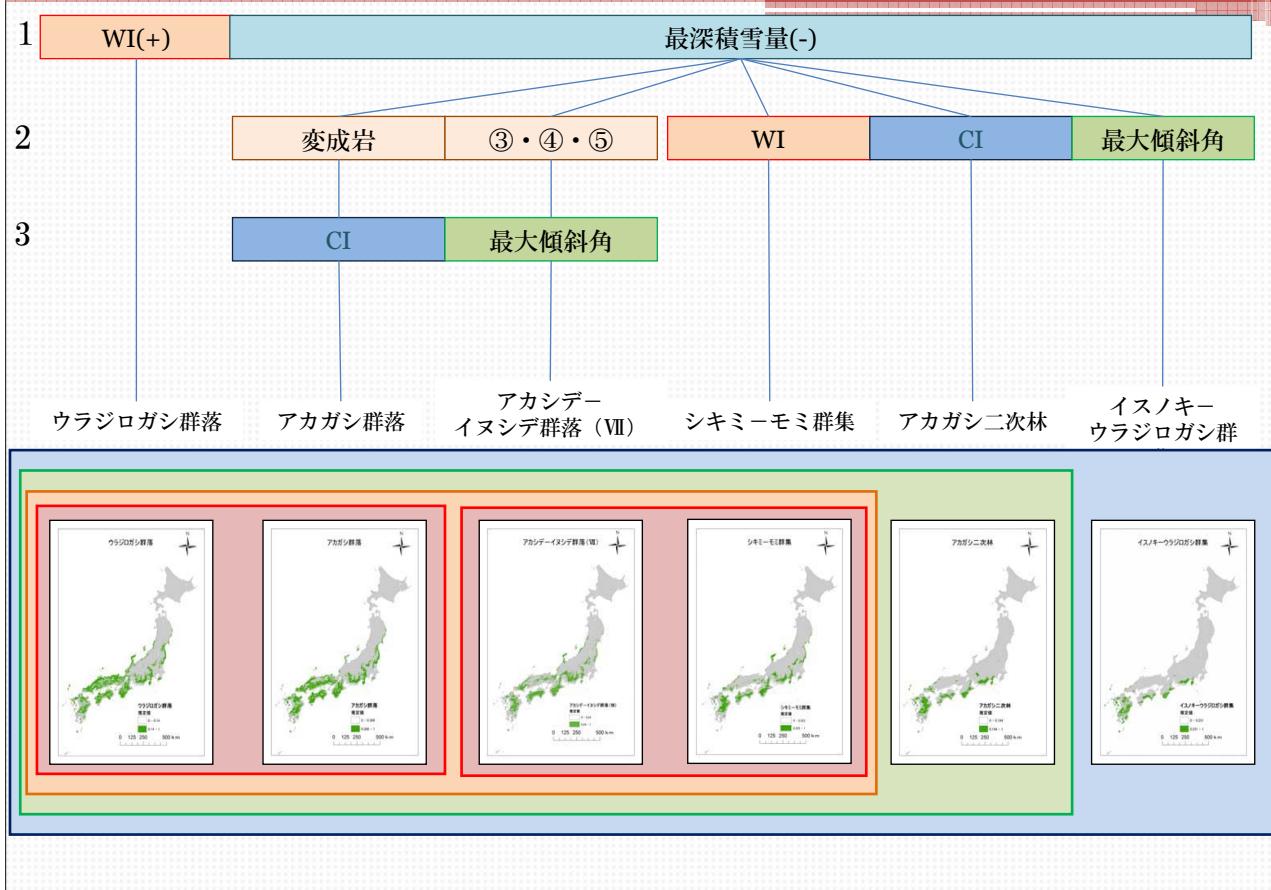
⑦森林型の類型化と環境要因との対応



⑦森林型の類型化と環境要因との対応



⑦森林型類型化と環境要因との対応



課題（これからやること）

- 詳細な範囲でのモデルの精度
- 1980年代の植生図と比較、検証
- 主組成を用いた遷移予測